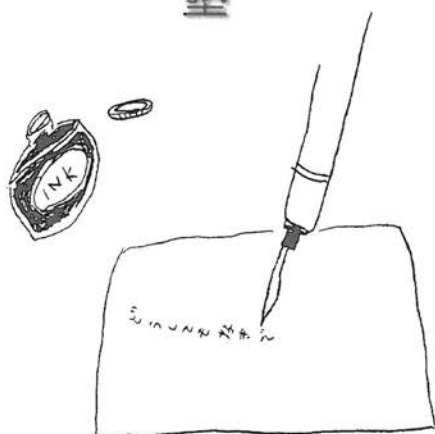


新子の
川柳ライブ塾



はじめに

母・時実新子が亡くなってから、私もボチボチ川柳を始めました。でも、教えてもらおうにも新子さんは居ません。こんな時はどうするんだろう、ここは「の」と「に」どっちがいいのかしらと疑問が渦巻いてきました。生存中にもっと教えてもらっておくんだったという思いが日に日に強くなり、悔やまれてなりません。

そこで私は、ちよいちよ「月刊 川柳大学」のバックナンバーを引っぱり出して「新子の川柳ライブ塾」を参考にさせてもらいました。

このたび、七回忌の記念品を考えるに当たり、皆さんに喜んでいただけるものは何か？と思い巡らせて、「そうだ！これならベテランの方は復習に、新人の方は参考書になるのでは」と、冊子にしてお配りすることに決めました。

この「新子の川柳ライブ塾」は、二〇〇二年から二〇〇五年にかけて大丸神戸・くじやくサロン「新子の川柳教室」のA組・B組、大阪朝日カルチャーの三カ所の教室の様子を実況中継という形で「月刊 川柳大

学」誌上で渡辺美輪さんが連載記事にしてくださいました。それを今回は生徒さんたちの苗字は伏せて使わせていただいております。それから同じく誌上で掲載しました杉山昌善さんによる十周年記念のインタビュー記事も収録しております。

ほら、新子節が聞こえてきませんか？

表紙絵は、元川柳大学会員の野原萌さんにご協力いただきました。

ブックデザインは、あざみエージェントの富上朝世さんにご尽力いただきました。本を作っている最中に何度も読みふけてしまい作業が止まることもあったとお聞きし、嬉しくなりました。

この冊子がボロボロになるほど読まれて、皆さんに川柳の面白さを再認識していただく道標になればという思いを込めてお届けします。

二〇一三年三月十日 七回忌に

川柳大学事務局

安藤まどか

CONTENTS

はじめに…… 2

新子の川柳ライブ塾

新子教室実況中継 1 …… 6

新子教室実況中継 2 …… 14

新子教室実況中継 3 …… 22

新子教室実況中継 4 …… 30

新子教室実況中継 5 …… 38

新子教室実況中継 6 …… 46

新子教室実況中継 7 …… 54

新子教室実況中継 8 …… 62

新子教室実況中継 9 …… 70

新子教室実況中継 10 …… 78

川柳大学十周年インタビュー

時実新子に聞く① 昨日今日明日 …… 88

時実新子に聞く② 作句編 …… 95

表紙絵 野原 萌
挿 絵 ひやまちさと

新子の川柳ライブ塾

新子教室

1

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 (台上に置かれた花の枝を見て) まあ、きれいだあれ？

美輪 知子さんです。

(後ろの席で知子が手を振る)

新子 まああ。ありがとう、やさしいねえ。何でしたかねえ、

これは……。

知子 蠟梅です。

新子 蠟梅。そうそう。いい匂いねえ。(前列端の孝明ご夫妻に花を渡して) みなさんにちよつと回してね。匂いのおす

そわけ。(正面前列の大きなマスクをした文枝・貴美子親子に目を留めて) あら、文枝さん、今日はお風邪？

文枝 はい、先生。この子(と隣の貴美子を指す)からもら

貴美子 (ガラガラ声で) ですから先生、先生に感染したらあかん思て、高いマスク買うて来ましたんですわ。

新子 わかりました、もうしゃべらんととき。(一同笑) それでは始めましょうか。

【新子教室の講座は、最初に前回の席題没句から学長が落穂拾いとして抜いた句を紹介する(ここでは省略)。続いて雑詠の講評に移る。雑詠は前回二句ずつ記名で投句したものを、学長が自宅で選と没句の添削をして、当日講評する】

助詞の使い方

新子 幸夫さん。

△母サラリそれがどうした男でしょ

これは、上五を五音にしようとしすぎましたね。「それがどうした男でしょ」は話し言葉でしょう。いつも助詞を省きなさいって言いますけどね、こういうときはつながが要ります。ですから、

○母はさりとそれがどうした男でしょ

幸夫 はあ、上五は字余りでもよかったんですか。

新子 そうです。上五は六音でも七音でも構いません。中七

下五を守ってくださいね。いつも言ってるでしょう。「七五五にリズムなし、七七五にリズムあり」って。

次は咲子さん。

△やがて六十歳^{ろくじゅう}夕日は放つ茜色

ここは咲子さん、わかってほしい。「夕日は」じゃないんですよ。「夕日^{ゆじつ}の」としてくださらないと。

○やがて六十歳夕日の放つ茜色

次は俊和さん。一句マルです。〈アイはアイ〉ちよつとみなさん、これという字かわかる? (一同考え、数人が手を挙げる) はい、美智子(H)さん。

美智子 愛情の「愛」と悲哀の「哀」じゃないですか?

新子 あら、あなたこの句知ってたの?

美智子 いいえ、先生(笑)。

新子 みなさんわかった? (数人がうなずく) まあ、耳で聞いただけでわかったの。みなさん優秀ねえ(としはし感心)。

ああ、句に戻らなくちゃ。俊和さんの句。

○愛は哀 孤島に雪は降り続く

さつき咲子さんには「は」ではなくて「の」にしてください、と言いましたが、こちらは「は」でないといけない。「愛は哀」

と「孤島に雪は」と、「は」が二つ要るんです。わかりますか、咲子さん。

咲子 はい。ありがとうございます(と深くうなずく)。

上品か下品か

新子 節子さん。

△水槽で動かぬ金魚凍えてる

「水槽で動かぬ金魚」ってことは、言わなくても「凍えてる」ことはわかるでしょう。だからね、節子さん、ここは「生きている」としなくちゃ。

○水槽で動かぬ金魚生きている

節子さんのもう一句、

△厚化粧を隠してきなこ餅

まあ、そりゃああんまり濃い化粧やったら「きなこ餅みたいね」とか言いますけど、ちよつとねえ……。

節子 すみません、先生。下品ですねえ。(一同笑)

新子 (笑いながら) そうそう、わかってらっしゃる。ここはどう表現するか、よく考えてね。

次は睦子さん。

△ワイン片手に色つきの夢見ています

「色つきの夢」はちよつとねえ……と言ったら、誰かに「下品です」と言っていたきたい。(一同笑) やっぱり睦子さん、言葉に工夫をしてくださいね。

○ワイン片手に夢もワインの色になる

次、文擴さん。

△愛された朝の枕の鼻濁音

「鼻濁音」は一時期流行りましたね。でも「愛された朝の枕」はねえ、ちよつと……。

文擴 いやあ、恋っぽい句を作ったかったですわ。しかし下品ですね。(一同笑)

新子 そうそう(笑)。いくら彼女が良かったとしても、こは男たるもの、

○蹴つ飛ばす朝の枕の鼻濁音

これぐらいは言わなくちゃ。(一同笑)

次は武明さん。

△すべてのこと言つて改札さつと出る

肩で風切つて行く感じが男らしくていいですね。でも、「すべてのこと」が上品すぎる。こはいっそ下品に、

○言いたい放題言つて改札さつと出る
この方がもつと男臭くなります。

言葉遣いに気を配る

新子 次はきよのさん。

△薄を活けるしみじみ味がある孤独

「しみじみ味がある孤独」と言ってしまったら言い過ぎ。「しみじみ」と言わずに「孤独」を強調するんです。

○薄を活けるもつと孤独になるために

いち子さん。

△ほめられた夜のポーカーフェイスかな

こはポーカーフェイスを崩してもらわんと。ほめられるとちよつとこそばゆくて、わざとポーカーフェイスを作るのわからんでもないけど、つまらん。(一同笑)

○雪の夜のポーカーフェイスすぐ崩れ

これだとドラマ性が出るでしょう。

篤子さん。

△紫氾濫 乱心の鈴を振る

よく工夫されましたけど、「乱心」と言わなくても、氾濫イコール乱心でしょう。こういうときはもう一度「紫」を持つてくる。

○紫氾濫紫の鈴打ち振れば

次は文子さん。

△やわいからバネを鍛えているのです

「柔いから」って、普通言う？

文字 言います。私、強そうに見えて、実は柔いんです。（一同笑）

新子（笑いながら）わかりました。まあ、「柔いから」はいとしましよう。でも鍛えんでよろしい。（一同笑）

○柔いからほうらこんなにバネがある

柔らかいからバネがあつてよくしなるんですよ。固い方がもろくてパキッと折れる。

次は萌さん。

△父を食べ母を食べ今私ある

「今私ある」だと「今」と「私」と「ある」がばらばらでしょう。これは語順だけです。もっと素直に。

○父を食べ母を食べ今ある私

平凡に徹する

新子 佳津子さん。

△決心が固まるはずもないプリン

これは佳津子さん、平凡ね。プリンが「固まるはずもない」は言い尽くされてきたんですよ。それでね、こういうときは、もっと平凡にしてみようと、逆に平凡から脱出できるんです。現在進行形で、

○決心が固まりかけてくるプリン

次は南子さん。

△平凡をさつと炒めて私流

こういう、形のないものを炒める、というのは一時流行りましたけどね。やっぱり私としては、具象を入れてほしいですね。たとえば、

○ピーマンをさつと炒めて私流

いつそこまで平凡にすると、「私流」が逆に生きてきます。

世津子さん。

△大正琴集って咲かす花舞台

これもねえ、平凡。「集²つて」というから平凡なんですよ。こういうときはさつきも言いましたけど、もっと平凡にする。

○大正琴集めて咲かす花舞台

世津子 でも先生、「集²つて」は「集まる」という意味でしよう？

新子 ええ、でもね。「集²つて」だと人間でしょう。「集めて」だったら人間以外のものを集めることになるから、「花舞台」の「花」を「咲かす」に通じるんです。

世津子 なるほど。わかりました。

新子 次、これは名前がありませんね。

△近づけばあの紅葉さえ知れたもの

知子 先生すみません、私です。

新子 知子さん、あなた七回目くらいよ、名前書き忘れたの。

知子 いえ、先生。三回目です。(一同笑)

新子 (笑いながら)句に戻りましょう。この句は「さえ」と「知れたもの」が気に入りませんね。見下した言い方です。どんなものに対しても「さえ」なんて言葉は使つてはいけません。ここは「紅葉(もみじ)」を「こよう」と読んで、

○近づけばあの紅葉も枯れ急ぐ

智恵子さん。

△樹齢百年なんてないことばかりです

この「なんてないこと」というのは、「何でもないこと」という意味？

智恵子 はい。樹齢百年の樹から見たら人間なんてちっぽけで、私の今の悩みなんて、何でもないなあと思ひまして。

新子 そう。でも、ちよっとこれはわかりづらいわね。こうしたらどうかしら。

○樹齢百年 そうですかそうですか

こうすると、樹がうなずいてくれるみたいで、ちっぽけな自分も出るし、樹の大きさも出るでしょう。

既成語に頼らない

新子 次は明子さん。

△落ち椿邪険に掃かれ泣き寝入り

明子さんは椿を邪険に掃くような人じゃないから、そういう人を見ながら椿の身になって詠んだんですね。でも、この「泣き寝入り」は既成語でしょう。既成語とか、俗語とか、まあ言い古された表現ですね。そういうものの多用は避けて明子さんの言葉で表現してほしい。

○落ち椿邪険に掃いているおひと

次は貴美子さん。

△深夜のコンビニ暗い世相を感じてる

「感じてる」じゃ誰が？ 何かこれでは遠くから眺めてるだけって感じで、他人事ですね。これはコンビニを主役に移ってきましょう。

○深夜のコンビニまぎと世相を見せつける

次は文枝さん。

△お月見のあの世をしのぶ枯れ薄

これは「枯れ薄」という既成語がネック。ご自分のことを「枯れ薄」なんて言っちゃダメですよ。ここはもう一度お月さまに登場してもらいましょう。

○お月見のあの世をしのぶいい月夜

続いて美智子さん。

△背合わせの鏡で見せる窓の月

「背合わせの鏡」って言葉、ある？（一同辞書を繰る）ない？ そうでしょう。「背中合わせ」ならわかるけどね。病床のお母様とかお父様にお月さんを見せてあげるっていうこ

とでしょうけど、それだったら「背合わせの鏡」と言わなくても「合わせ鏡」や「手鏡」という言葉があるんだから、

○手鏡であなたに見せる窓の月

美智子 先生、既成語でもいいんでしょうか？

新子 ええ、日本語ですからね。全部使わないというわけにはいかないでしょ。ただし、できるだけ自分の言葉で、ということですよ。

直しようのない句

新子 郁子さん。

○瞬きがあの日に帰すルミナリエ

これは直しようがないけど、あまりいい句ではない。ルミナリエでこの句を思いつかれたのですが、日記に書いておいてください。もっと上を目指すなら、ここで「はねる」ということが必要です。下五に何を置くか、考えてみてくださいね。

【他にとき子・孝明・恵美子・玉江・マサコ・美輪といった出席者の講評が一通り終わり、続いて兼題の披露に移る。兼題選者は受講生が交代で務める。次に席題の合評。当番が

用紙に清記し、コピーして配布。各自入選数句（各一点）と特選一句（各二点）を選び、合点法で集計。特選に選んだ理由を全員が説明し鑑賞する（兼題と席題合評はここでは省略）。最後に余った時間が質問タイムとなる」

新子 それでは質問タイムです。（数名が手を挙げ、学長が当てる）はい、啓三さん。

啓三 今日の兼題「台」で、「台所」とか「台本」があつたんですが、先生、これは「よみこみ」に当たりますか？

新子 あら、ありましたか？ うっかりしてましたね。「台」には「基礎」って意味があるから「台本」は「芝居の元になる本」ということでそうなるんだけど、これはやっぱり本来の「台」の意味で詠んでいるとは言えないですね。「台所」も、これはやはりよみこみです。題に忠実だとどちらもダメですね。

篤子 じゃ「台ふきん」はどうですか？

新子 「台ふきん」も「台」じゃなくて「ふきん」が中心になってますからね。やはり「台」と言ったら洗面台とか鏡台とか踏み台とか、「台」そのものを詠んでほしいですね。

はい次、利秋さん。

利秋 私もよみこみのことですが、「犬」の題で「アイボ」とか「狛犬」とか、これはOKですか？

新子 これは許されるでしょう。犬の姿を写したものですからね。私も（老人はアイボを叩き殺したわ）という句を作りましたが。（一同笑）

次。はい、文子さん。

文子 しょうもないことなんですけど、「お砂糖」とか「お餅」とかの「お」という接頭語ですね。こういうのはあまり付けない方がいいんじゃないでしょうか。

新子 そうですね、「お」が付くと勢いが消えますから、原則として避ける。でも、これは作者が考えることです。「お餅」と柔らかに表現した方がいい場合もありますからね。

この句には「お」を付けた方がいいかな、付けない方がいいかな、と、着物の見立てをするように、一句一姿、句の姿にぴたり来る表現を考えてください。

文子 それともう一つ、よく動詞の題で、選者になると悩ましいんですよ。出題されるのはたいがい能動態でしょう。そうなると、たとえば「取る」の題で「取られる」とか、「食べる」の題で「食べられる」は、全部没ですか？

新子 そうです。原則として私はこだわります。でも、みな

さんにはあんまり文法にこだわらないで、のびのび作ってほしいですね。「学問」なら文法にもっとこだわってもいいでしょうけど、川柳は「文芸」であって「学問」じゃないんですから。「理屈」や「理論」は時として創作の邪魔になります。

はい次、あいさん。

あい あ、先生よく「これは直しようのない句」っておっしゃいますけど、そう先生に言われて、でも気になって宙ぶらりんになってる句があるんですけど。

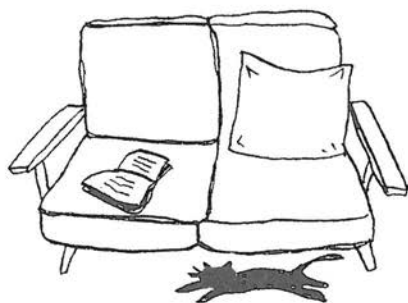
新子 それはね、潔く捨てることです。「直しようがない」ってことは「どこも悪くない」。でも、あまり「いい句」ではない。つまりお行儀が良すぎて作品としての魅力に欠けます。まあ日記に書いておくことですね。

あい その「日記に書いておく」っていうのもよくわからないんですけど。

新子 ですからそういう句は、たとえば句集なんかをまとめるときには入れない方がいいですね。日記に書くに留めて先に進むこと。それが次のステップになります。

あい はい。

新子 ああ、もう時間ですね。それではみなさん、また次回お会いしましょう。



新子教室

2

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 (雑詠・兼題の特選及び席題の最高得点者に贈られる賞品として置かれたディパックを目にして) まあ、今日の賞品、いいわねえ。当番はだあれ?

文擴 はい、私と美津子さんです。

新子 いいわねえ。私が欲しい。(一同笑)

美輪 (台上に兼題の投句が置かれたままになっているのに気づいて) 文擴さん、今日の兼題の選者はどなたですか?

文擴 あ、しまった。決めてなかった。

新子 あら、決めてなかったの。

文擴 すみません、すぐ決めます。(名簿を確認して) 萌さん、お願いできますか?

萌 はい。

新子 決まりました? それでは始めましょう。

【最初に前回の兼題の没句から学長の落ち穂拾いがあり(ここでは省略)、続いて雑詠の講評が行われる】

表記と送りがな

新子 世津子さん。

△文学論を泡立ている春の風

世津子さん、「あわだてて」だったら「て」がもう一個要りますよ。

世津子 あ、そうですか?

新子 そう。このままだと「あわだてている」になってしまいます。でも、この「文学論を泡立てている」はいいですね。これをもっと生かしましょう。風なんかよりも室内の方がいい。

○文学論を泡立てているコーヒー屋

あいさん。

△渾身で揺って落す花の実木の実

あいさんも、送りがなが足りませんね。「ゆすつて」なら「す」が、「おとす」も「と」が要ります。

それと、「渾身の」と言わなくても、一生懸命さを出すことは出来ますよ。

○木の実花の実揺すって落とすまだ足りぬ
あい ありがとうございます。

新子 次は咲子さん。

△豆つぶて鬼も母さんいるだろう

前にも言いましたが、「母さん」とか「父さん」とか、「さん」づけは句を弱くすることがあります。呼びかけ語ですから、それが生きてくる場合もあるんですけどね。

○豆つぶて鬼も母鬼かばいつつ

孝明さん。一句マルです。

○一寸ずつ暖かくなる毛糸編む

孝明さん、これは「ちよつとずつ」と読んでいいですか？

孝明 いや、「いつすん」のつもりだったんですが。そう読んではいけませんかね？

新子 ああ、「いつすん」ですか。それでも構いませんけれど、それならルビがほしいし、またどうしても嵐雪の「梅一輪……」の句を思い出してしまいますね。

言葉の使い方

新子 知子さん。

△昔から正月お盆は大嫌い

知子さん、ちゃんと指折って数えた？ 中八になってますよ。それに、わざわざ「正月お盆」と言わなかったって「盆正月」という言葉があるんだから、

○昔から盆正月は大嫌い

これでちゃんと中七になるでしょう。

知子 一月に作ったから、先に正月が来ちゃったんです。（一同笑）すみません。

新子 武明さん。

△断層写真Vサイン型影写る

うーん、困った。（一同笑）深刻な内容を軽く詠んでいるのはいいんですけど、「Vサイン型影写る」……何だか舌足らずですね。かといって助詞を入れると中八になるし……。こうしましょうか。

○断層写真Vの形に写る影

これならちゃんと中七ですし、舌足らずな感じがなくなります。

玉江さん。

△かもうてはいらぬ猫にはザララ舌

「ぎらら舌」って言葉、あった？（一同首を傾げる）まあ、感じは出てますね。あのぎらぎらの舌。でも、「猫にはザララ舌」はちよつと無理がありますね。

○かもうてはいらぬザララの猫の舌

全員が選者

【その後も出席者たちの講評が行われ、特選の明子に賞品が贈られる。続いて兼題の披露。兼題選者は学長の雑詠講評の間に選をして披露する（ここでは省略）。次に席題の合評に移る。講座開始前に一人一句ずつ無記名で投句した句箋から、当番が一覧表型の清記用紙に清記し、コピーして全員に配り、全員が五分程度で選句（特選一句、入選六〜七句）。学長が句を読み上げると、入選なら片手、特選なら両手を挙げる。片手は一点、両手は二点と、手の数が得点になる合点方式で計算する。ただし学長の選んだ句は三点。全員、自分が特選に選んだ句について説明しなくてはならない】

新子 では、お当番さん、お願いします。（本日の当番、文擴と美津子が前に出て来る。当番は挙がった手の数を数えて記録する）じゃ、行きますよ。本日のお題「スープ」。

① キス記念日若草色の豆スープ

文擴 五点です。

新子 二点の人はいなかった？

文擴 はい。

新子 おいしそうねえ。「サラダ記念日」ならぬ「キス記念日」。

作者は？

萌 萌です。

新子 まあ、萌さん。おめでとう。（一同笑）明るくていいです。では、次の句。

② 居心地の悪いお部屋で飲むスープ

文擴 八点です。

新子 二点の人、文子さん。

文子 これはもう情景が浮かんできまして、そういうハメになった作者に二重丸。（一同笑）

新子 そうですねえ、ちっともおいしくないスープよねえ。（一同笑）作者。

いち子 いち子です。

新子 いち子さんでしたか。では、次です。

③ 泣くもんか母に良く似た味噌スープ

文擴 五点です。

新子 これは二点の人はいませんね。作者は？

美智子 美智子（H）です。

新子 美智子さんね。これはまさに「味噌スープ」がミソですね。（一同笑）

④ リベンジもスープに込めてうまい味

あんまりこめないでね。（一同笑）

文擴 三点です。

新子 リベンジの作者。

知子 知子です。

新子 まあ、知子さん。こわいねえ。（一同笑）いえ、さぞかしおいしいでしょう。（一同笑）では、次の句。

⑤ ポターージュは少し濃い目の仲直り

おもしろいねえ。「少し濃い目」ということは、まだちょっと怒ってるんでしょうね。

文擴 八点です。

新子 二点の人はいなかった？ 作者。

文擴 文擴です。

新子 文擴さんでしたか。なぜか今回、「煮詰まる」とか「濃い」ばかりで、薄める句がなかったですね。「少し薄目の仲直り」でもおもしろかったかもね。

特選の理由

新子 次の句。

⑥ スープ皿言葉ひとつを飲みこんで

（挙がった手の数を見て）まあ、すごい。

文擴 十一点です。

新子 両手の人。萌さん？

萌 はい。コースの最初に出てくるのがスープでしょう。その最初から言葉を飲み込んで言わない、というのがすごい意志の強さだなあと思いました。

新子 作者に聞いてみましょう。スープ皿の作者。

とき子 とき子です。そこまでは考えなかったんですけど。（一同笑）

新子　そうですか（笑）。では、次です。

⑦　スープの冷めぬ距離の小さな愚痴を言う

文　四点です。

新子　孝明さん、両手挙げてらっしゃったわね。

孝明　はい。娘がよう愚痴を言うので、共感しました。「小さな愚痴」というところが、じめじめしてなくていいと思います。

新子　そうですね。これは「小さな愚痴」というところがポイントですね。作者。

新子　郁子です。

新子　郁子さん、孝明さんの解釈でよかった？

郁子　はい。そのとおりです。

新子　そうですか。では次の句。

⑧　貴婦人のようにさみしいスープ飲む

（二斉に手が挙がる）すごい手の数ね。私の三点も入れてね。

文　二十三点です。

新子　二点入れた人。世津子さん。

世津子　はい、「貴婦人のように」がすごいなあと思いました。で、すごくさみしい感じがよく出ていると思いました。

新子　そうですね。いち子さんは？

いち子　世津子さんに全部言われてしまいました（笑）。でもやっぱり「貴婦人」ですね。

新子　他の人は？　南子さん。

南子　私も「貴婦人」が「スープ」とこんなによく合うものかと思って感心しました。しゃんと背筋を伸ばした、毅然とした姿も浮かんできて。

いち子　そう、凛と美しく、気品があって、さみしくて。

新子　そうですね。この「貴婦人」という語ですべて表せる。川柳のすごさを感じますね。貴婦人の作者。

美津子　美津子です。

新子　まあ、美津子さん。よかったわねえ。本当にいい句でした。では次。

⑨　ポタージュを姑の口へと銀の匙

これは「しゅうとめ」を「はは」と読んでね。

文　八点です。

新子　二点の人。節子さん？

節子　はい。今はやさしさも出てるけど、すごくつらいこともあったのだと思うんです。嫁と姑がうまくいく、というのは、うわべだけでしょう。「銀の匙」にそれが表れてる気

がしまして。

新子 まあ、嫁と姑は仲が悪いって、それこそ固定観念ですよ。(二同笑)

節子 でも銀の匙って、きれいでですけど実用性に欠ける、冷たい感じがしませんか？

新子 まあ確かに。作者に聞いてみましょうか。作者。

きよの きよのです。

新子 きよのさん、どうだった？

きよの うーん。(二同笑) まあ、いろいろありましたけどね。でも「銀の匙」はいい意味で使ったんですけれど。

新子 そうでしょう。いい意味で取ってください。次の句です。

⑩ 強くなろう固形スープを半個足す

(一斉に手が挙がる) すごく数ねえ。

文擴 二十三点です。

新子 では、順に聞いてみましょう。美輪さんから。

美輪 はい。「半個」というのがいいなあと思いました。半個だけ、というのが、ちよっぴり濃くして、ちよっぴり強くなろう、と自分に言い聞かせてるところがポイントだと思えます。

俊和 僕も「固形スープ」を「半個」という具象がいいと思

いました。

あい 私も一個にせずに「半個」としたところに強い意志が出ていたと思いました。

佳津子 ほんの少しの勇気を出すのに、「半個の固形スープ」というのが、まさに半歩出ている感じがします。

新子 そうね。「半個」がポイントね。半個の作者。

篤子 篤子です。

新子 そう、篤子さん、よかったわね。いい句でした。

得点にこだわらない

新子 次に行きますよ。

⑪ 言い訳に野菜スープの具をよける

文擴 七点です。

新子 二点の人。篤子さん？

篤子 はい。スープの具をよけてる情景が浮かんできて、動きがあると思ったので選びました。

新子 そうですね。作者。

啓三 啓三です。

新子 啓三さんですか。かなり複雑ですよ、これは。口で

言わずに具をよける。ユニークな句ですよ。では、次です。

⑫ 嫁姑スーパの冷めぬ距離がよい

文擴 一点です。

新子 これは作者に聞いてみましょう。

文枝 すみません、先生。私ですけど、実は「冷める」のつもりで「冷めぬ」って書いてしまったんですわ。

新子 あら、まあ。美津子さん、句箋はどうなっていました？

美津子 (句箋を確かめて)「冷めぬ」です。

文枝 ちゃんとノートには「冷める」って書いてたんですけど、写し間違えまして。

新子 まあ、そう。それは仕方ないですね。もしこれが「冷める」だったら選んだ人、どれくらいいる？(一斉に手が挙がる)ほら、全然違いますよ。

文擴 十三点です。

新子 たった一字で大違いですね。まさに川柳、というところね。次の句に行きましょう。

⑬ くるくるとまわすスープに謎を秘め
どなたもお買いあげがない？

文擴 ゼロ点です。

美輪 これ、先生「くるくるとまわす」というのがよくわからなかったんですが。

萌 そうです。「まわす」のがスプーンなのか、鍋の中でおたまを回しているのか。

新子 そうですねえ。煮込んでいる情景でしょうかね。作者。

節子 節子です。

新子 節子さん、これ煮込んでいるの？

節子 いえ、カップを回しているんです。スープってたいてい不透明でしょう。ですから謎だなあとと思って。

新子 私もよくわかりません。謎ですね。(一同笑)そのあたり、点が入りにくかったんでしょうね。では、次行きます。

⑭ 熱熱のスーパを吸る目と目と目
(手の数を見て) もうちょっと買って。

文擴 一点です。

新子 買ってくれた篤子さん。

篤子 ええ、入選七句ですから、最後を選びました。

新子 これおもしろいですよ。「目と目と目」だから、三人いるんですよ。ちよつとドラマも感じられて、いい句ですよ。作者は。

幸生 幸生です。

新子 幸生さんでしたか。幸生さん、点数じゃありませんよ。いい句ですから、堂々と自選句として大切にしてくださいね。

選者の心得

「この後も席題の合評が進み、一同活発に意見を交わす。今回の最高得点は二十三点で美津子・篤子の二人。美津子は当番なので篤子に賞品が贈られる」

新子 それでは、質問の時間です。はい、佳津子さん。

佳津子 選についてですけど、季節に合わないけどいい句、という場合は、選んでいいのでしょうか？

新子 そうですね。基本的に川柳は無季ですけど、やっぱり春にヒマワリや彼岸花が出てきたら不自然でしょう。それに「今の自分」「今だから詠める句」を選ぶ、という意味でも同じレベルの句なら、今の季節を詠んだ句であつた方がいいですね。同じお彼岸でも春なら「ぼた餅」、秋なら「おはぎ」でしょう。季節に敏感な日本人らしく、使い分けてほしいですね。篤子 私も選についてですが、選ぶ時どうしても感覚的に採ってしまうんです。

新子 それでいいですよ、理屈で採らずに感覚で採る。迷わ

ずに、自分の感覚を信じて選んでください。その、短い時間でいかにいい句を見分けるかという感覚を磨くことが必要です。篤子 でも、迷って落とした句が、先生の落ち穂拾いに入っていることがあつて、また迷ってしまうんですが。

新子 それは、このくじやくサロンはお勉強会ですから、落とした中で拾った方がよいものは私が採りますけどね。迷ったらバツサバツサと落としていいです。句会で選ぶときは、山を三つ作ります。「明らかにいい句」「迷う句」「没」と分けて、没にしたらもう二度と見ない。後は抜句数の関係で、「迷う句」で調整するんです。

あら、もう時間ですか？ それではみなさん、また次回お会いしましょう。



新子教室

3

実況中継

始めますよ。

【いつものように前回の兼題の没句から字長の落ち穂拾いがあり（ここでは省略）、続いて雑詠の講評に移る】

何を主役にするか

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 今日はね、五十歳以上の女性に本を差し上げます（と、紙袋から雑誌を六冊取り出す）。私が書いたんじゃないですよ。でもね、いろいろとためになることが書いてあるの。三冊セットで、お二人にね。欲しい方。

（はい、と大勢が一斉に手を挙げる）

あらまあ（笑）。じゃあ、じゃんけんで決めてください。

【手を挙げた受講生がぞろぞろと前に出て、じゃんけんによる雑誌の争奪戦。玉江と咲子の二人が本を手にしてニコニコと席に戻る】

新子 いったい何の会やと思われるわねえ（笑）。それでは

新子 利秋さん。

△忍耐という字がうまく書けません

この字を知らないという意味じゃないですよ、もちろん利秋 はい、こらえよう、我慢しようと思ってもできないという気持ちです。

新子 そうねえ。でも「うまく書けません」だと、ちょっと弱い。いっそ、

○忍耐という字**い**つばい書いてみた

この方が、書いても書いてもこらえきれない思いが出ますよ。

武明さん。

△スローボール覚え今年**の**春一番

ここは「春一番」を主役にしましょう。下五が六音で重た

いですから、前に持ってきて、

○春一番スローボールを覚えたな

春一番っていうと、普通は強い風を思いますよね。それがスローボールを覚えた、というと、人生や野球よりもおもしろいですよ。

郁子さん。

△時刻む針の一途さ方眼紙

「時刻む針」と「方眼紙」って、結びつきます？ これ、どういうことが言いたいのかなあ。

郁子 あ、カチコチで四角四面の私のことなんです、方眼紙って。

貴美子 私がこの人につけたあだ名ですわ。あんだ、方眼紙みたいやねえ、って。(一同笑)

新子 (笑いながら) わかりました。では、方眼紙を生かしましょう。このままだとちよっとわかりづらいですね。ここは「針」を「命」に替えて人生を出す。

○時刻む命の一途方眼紙

入れすぎ・付きすぎ

新子 玉江さん。一句マルです。

○切り口を見せて売られてゆくかぼちゃ
おもしろいですねえ。「切り口を見せて」というところが、まさにかぼちゃです。

玉江さんのもう一句、

△またの裏切り氷雨となりて春コート

これはいろいろ入れすぎましたね。ちよっと具が多い。こは「春コート」を生かしましょう。そうすると「またの」は要らないし、「氷雨」も余計です。

○裏切りはわかってました春コート

これですっきりしましたね。どっちを入選にする？

玉江 両方です。(一同笑)

新子 (笑いながら) あんだ欲張りやねえ。(はたと気付いて) ああ、「かぼちゃ」の句はマルにしてたんだったわ。玉江さん、ちよっとは遠慮しなさい。(一同笑)

惠美子さん。

△いないいないばあ哀しい嘘がさらされる

いかにも流行歌ですねえ、「哀しい嘘」というと。中条きよしでも歌いましょうか。(一同笑) これは「哀しい」が言い過ぎです。哀しいと言わずに、哀しいのを言外で読みとって

ほしい。

○ いないいないばあして嘘がさらされる

新子 咲子さん。

△ 豆粒の私見つめる虫眼鏡

咲子さんも「豆粒の私」という発想はよかつたんですが、「虫眼鏡」が付きすぎ。このままだと、馬から落ちて落馬して、みたいになつてしまいます。たとえば、

○ 豆粒の私と思う日は早寝

こうすると、自分が小さいなあ、くやしいなあ、と思う気持ちが大きくなります。

仔猫か人か

新子 俊行さん。一句マルです。

○ 縦に振る首を持たない仔猫ちゃん

かわいいねえ。おもしろい。確かにそうね。猫というのは首を縦には振りません。横に振ったり、首かしげたりはしますけどね。これは発見です。

ところで、この「仔猫ちゃん」は本物の猫？ それとも小悪魔のようなかわいこちゃん？ きりきり白状なさいませ。

(一同笑)

俊行 (たじろいで) いや、その、仔猫もそうですし、人間の女の子もそうですし。(一同笑)

新子 わかりました(笑)。あんまりいじめないでおきましよう。(一同笑)

俊行さんのもう一句、

△ 百均の花で時々だまされる

「百均」って普通、言います？

文子 よう言いますよ。

美輪 言いますねえ、確かに。

新子 言わないで。(一同笑) 広く市民権得てる？ 百円均一のことを百均？

きよの もう得てると思いますけど。

新子 得んでよろしい。(一同笑) 私は「百均」という言い方は嫌いです。確かによく使うかも知れませんが、十年後、百年後に残ってほしい言葉ではありませんね。ちよっとニュアンスが違うかも知れませんが、

○ 百円の花に時々だまされる

これでいいでしょう、俊行さん。

俊行 (うろたえながら) はあ。

新子 ほとんど脅迫ですね。(一同笑)

啓三さん。

△家にいた猫がホームで待っている

この「ホーム」はプラットホーム？ 老人ホーム？

啓三 プラットホームのことです。

新子 そう。でも「ホーム」というと、いろいろ浮かんできますよね。プラットホーム、老人ホーム。猫は家に付くというから、マイホームということも考えられる。ここはいつそ言い切らずに、どのホームかみんなに想像してもらいましょう。

○家にいた猫がホームへ先回り

花もさまざま

新子 とき子さん。

○七十歳の思いに句う沈丁花

いいですねえ、沈丁花。あれも不思議な花で、五十歳の時は五十歳の句いでした。そうでしょ、知子さん？

知子 私、あの花嫌いなんです。トイレを連想するんで。(一同笑)

新子 まあ、お宅のトイレの前に何が植わってようとうよろしい。(一同笑)とにかく、句いというのは記憶に結びつきま

すね。五十歳の時は五十歳の句い、七十歳の時は七十歳の句い。同じ沈丁花なのに、それぞれ違う句いなんです。不思議ですね。いい句でした。

知子さん。一句マルです。

○諭すよう木蓮の花咲いている

いいですねえ。知子はホントに花を詠ませると拔群にいいぜひいつか花の句集を作りなさいね。

木蓮のあのぼつてりとした花、まさに諭すようですよ。(文枝の口まねで)「貴美子、何しとんのや」(一同笑)と諭すのは白木蓮……。

貴美子 うちのは紫木蓮です、センセ。(と隣の文枝の髪を指さす。一同爆笑)

新子 (笑いながら) そうでした。文枝さんのおぐしはパールでしたね。参りました。知子さん、この句は白木蓮ですよね？

知子 はい、白です。

新子 そう。白もよし、紫もよし。いい句でした。

知子さんのもう一句、

△ただ一人あなた分ればそれでいい

知子さん、「わかれば」の場合は送りがなに「か」が要り

ますよ。「分ける」「分かる」と違う活用がありますからね。

それと、ちょっと平凡です。こういうときは、前にも言いましたが、平凡に徹することで平凡から脱します。話し言葉で、

○そうなのよあなた分かれればそれでいい

新子 篤子さん。

△馬酔木^{あせび}咲く誰も読んではくれぬ名で

これは篤子さん、説明です。「よんではくれぬ」が「呼ぶ」という字なら、誰にも呼ばれないというさびしきが出るんですがね。馬酔木という字は確かに、読めない人が多いです。でも、いつそこはストレートに、こうしましょう。

○一発で馬酔木と読めてさびしい日

リズムと表現

新子 萌さん。

△まだ許容範囲^{あいまい}に溶ける泥

萌さん、どうもこのところリズムが外れてきましたね。だんだん散文になってしまってます。

萌 そうなんです。何か最近おかしいなあと自分でも思うんですけど。

新子 やっぱりね。川柳は韻文ですから、リズムが要ります。同じ内容でも、

○あいまいな許容範囲で溶ける泥
こうするとリズムが出るでしょう。

幸生さん。

△至福なり妻が伸び伸び高いびき

幸生さん、「のびのび」はひらがなにしましょう。「伸びる」という漢字では、奥様がまるで伸縮自在のゴムひもみたいよ。(一同笑)

○至福なり妻がのびのび高いびき

幸生さんのもう一句、

△いつまでもハイジのような君が好き

どうぞお幸せに。(一同笑) でもね、これは前の句と同時に味わうために、

○いつまでもハイジのような妻だから

こうするとよりおもしろくなる。

それで、たとえば自選で並べるような場合は、順番としてこの「ハイジ」を先に持ってきてくださいね。配列ということとは大事ですよ。私の、

〈飛行機の昇る角度は恋に似る〉

〈飛行機の降りる角度は愛に似る〉

この二句は分かちがたい、離してもらっては困る対句ですが、これほどではないにしろ、二句が順番に並ぶことで響きあう句というのがありますからね。

幸生　ありがとうございます。

新子　いち子さん。

△行間を読んでほしくて書く手紙

上手ですね。このままでいいんですよ。よすぎるくらい。でも、いち子さんだから言いますが、ここでもう一押ししてほしい。

○行間を読んでほしいと書く手紙

しおらしく「読んでほしいなあ」と心で思ってるだけじゃなくて、「ちゃんと行間読んでね」ってしっかり追伸に書いてやう。（一同笑）これが川柳味というもの。

あいさん。

△空き箱をしまう空箱買い求め

空き箱の中にまた空き箱が……。 （一同笑）おもしろいですねえ。でも、ちょっと欲を言いますと、インターバルが欲しい。空っぽの箱をしまうための箱をわざわざ買うのは、究

極のさみしさです。少し変えますよ。

○空き箱をしまう空箱買いに行く

これだと動きが出ますね。

あい　はい、ありがとうございます。

【その後も出席者たちの講評が一通りなされ、受講生による兼題の披露、全員で行う席題の合評と続く（兼題と席題合評は省略）】

ルビと助詞

新子　それでは質問タイムです。はい、貴美子さん。

貴美子　あの、今回私が席題で作った句ですけど、

〈弱そうに見えても強い罌粟^{けし}の花〉

私、「罌粟」いう字によみがなをつけたんですが。

新子　ああ、ルビですね。

貴美子　はい。それで、私自分が読めないもんやからつけた

んですけど、みなさんに対して失礼かなあと思いました。

新子　そうですね。「ケシ」にはもう一つ、塵あくたの子（芥子）という字もありますし、こっち（罌粟）は難しい字ですから、まあ、この字ならふつてもいいでしょう。ふりがなもね、

あんまりつけすぎると失礼だし、かといって、ふらないと読めないような字につけないのもまた困る。ケースバイケースですね。

はい次、俊和さん。

俊和 はい。先生は、よく「てにをは」をあまり使わないように、とおっしゃいますが、そのところをもう少し。

新子 使わないように、ではありませんよ。確かに、散文は「てにをは」を省けません、韻文はリズムを守るために省くことが許される。「てにをは」を入れれば入れるほど散文に近づきます。でも単語ばかり並べたら句になる、つてわけではありません。つなぎとして「てにをは」がいる場合もありますから、これもケースバイケースですね。一般的に、「てにをは」が多くなると散文的になると思ってください。

次、利秋さん。

利秋 はい。私は、よく言い切ってます、読者に読みを任せるというのが苦手なんです、任せるのが川柳の本道なんでしょうか。

新子 「読者に任せる」というか、私は「読者に座布団をお出しする」と申していますが、いろんな読みをしてみたらうと

いうことです。

誤解を恐れずに言えば、竹の切り口のようにスパツと言いつけるのが川柳です。俳句は言い切らずに余情を持たせる。川柳は言い切つていいんですが、答えを出したら失敗ですね。上五・中七で説明して、下五でだめ押しをすると、「そうですか川柳」になってしまう。歯切れのいい、言い切りの句と、答えが出ている句とは違います。

利秋 はい、ありがとうございます。

表記と言い直し

新子 はい次、文枝さん。

文枝 あの、センセ、私ねえ、漢字にしようか仮名にしようか迷うことが多いんですわ。ようわからんのですけど。

新子 それはそれこそ好みですよ。漢字でも仮名でも自分の自由です、句によっても違います。やっぱり一句一姿です。それぞれの句にあつた字を使ってください。

たとえば「桜」にしても、この句は漢字にしようかな、これはひらがなにしようかな、と着物の見立てをするつもりで考えてください。はやし立てる、場を盛り上げるために頼んでおく人たちのことを漢字で「桜」と書いたらおかしいで

しょう？ これはカタカナで「サクラ」というのが一番適当でしょうね。

あと、動詞なんかだと、言い回しで句の印象が違ってきますね。「怒っている」を「怒ってる」とすると、ちよつと軽くなるでしょう。よく考えて選ぶようにしてくださいね。

はい次、萌さん。

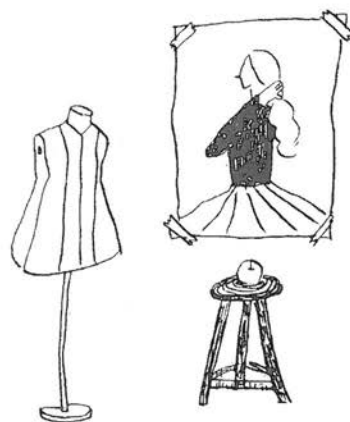
萌 はい。今回の席題で、玉江さんの

〈張り子の虎にそうやそうやと言わしてる〉という句のことなんですが、先生は「言わしてる」を「言わせてる」に直したんですが、「そうやそうや」は関西弁ですけど、下五は標準語にしないといけないんでしょうか。

新子 「言わしてる」は関西弁かしら。これは言い方の癖じゃない？ 文字表記の時は「言わせてる」の方がいいと思うから、そう直させてもらったんですけどね。

方言いうのは難しいですね。関西弁は割と全国的に認められてますが、使いすぎはよくない。この句の「そうやそうや」は、張り子の虎の動きが出るからいいんですけどね。これが「そくだそくだ」では、あのほわんほわんした感じが出ないでしょう。でも、標準語でもいいところを、やたらと関西弁にするのは感心しませんね。

というところでお時間ですね。それではみなさん、また次回お会いしましょう。





新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 どなたか、シャガール展に行かれない？ 割引券が余ってるのよ。ちよつと期間短いけど。（幸生会員が手を挙げ、学長から割引券をいただく）

新子 他はいらっしゃらない？ じゃ、さっそく始めますよ。お当番さん。

【最初に落ち穂拾いの紹介。前回兼題で没となった句から、学長が「これは」と思った句を抜き、読み上げる。協取は当番が務めるが、協取の復唱はここでは省略】

新子 前回の選者は郁子さんでしたね。題は「左」。では行きますよ。

〈邪魔なもの左の足で片づける〉

知子 知子。

新子 知子さんらしい。（一同笑）おもしろいねえ。利き足ではない左足ならではよね。こう、邪魔なものをよけたりして（と、左足で何かをよけるしぐさ。一同笑）。目に見えるようですね。

〈左手に重たい物を持たせない〉

ひろこ ひろこ。

新子 ひろこさんですか。これは実感ね。年取ってくるとよくわかります。だんだん心臓の側に重いものを持たなくなるんですよね。（一同うなずく）

〈右手を叩く何にもしない左の手〉

惠美子 惠美子。

新子 惠美子さんでしたか。これもおもしろいね。何にもしないで、右を叩くという。（と左手で右手を叩くしぐさ。一同笑）これも「左」ならではね。

会話体の是非

「他、数句が落ち穂拾いとして復活する。続いて雑詠の講評に移る」

新子 文枝さん。

△生きていりやいいことあるさ青い空

まあ、このままでもいいんですけど、ちよつと「りや」とか「にや」といった言い回しは、川柳には向きませんね。散文ではなく韻文ですから、

○生きてればいいことあるさ青い空

文枝 はい、ありがとうございます。

新子 美輪さん。

△そういえば元気がないねほととぎす

美輪さん、最近「ほととぎす」に逃げてばかりね。少しほととぎすから離れなさい。ここは会話体に見ましよう。

○そういえば元気がないねあなたもね

こうすると、川柳ならではの意地悪な目が効いてきます。

幸生さん。一句マルです。

○よう降るねそうやね熱い茶を啜る

いいご夫婦ですねえ。お幸せに。(一同笑) これがちなみ

にうちだと、私が、「よう降るね」と言っても「それがどうした」ですからねえ。(一同爆笑)

話を戻しますよ。これは全部会話体にしたのが効きました。何でも会話体にすればいいものではありません。ケースバイケースです。使いすぎはいけません、これは成功の例ですね。

幸生 ありがとうございます。

説明調の句

新子 惠美子さん。

△ホウセンカ弾ける前の花の白

ホウセンカって、全部白い花じゃないでしょう。ピンクも赤もありますね。特に「白」と言いたいなら、

○ホウセンカ弾ける前のその白さ

「花」と言わなくても、これで白い花が咲いていたとわかりますね。

惠美子 はい。ありがとうございます。

新子 俊和さん。

△信じてた常緑樹の葉枯れてゆく

これは俊和さん、「信じてた」がもう説明です。それと、「常緑樹」が「枯れる」んだから、「葉」と言わなくてもいいでしょう。いつそはつきりと「人」を詠んで、

○常緑樹だって枯れるさ人が逝く

俊和　なるほど。わかりました。

新子　郁子さん。

△距離置けば少し冷静桐の花

ちよつとぎくしやくしてる感じね。これも上五が説明です。

「距離置けば」と言わなくても、

○少しずつ冷静になる桐の花

これで桐の花のたたずまいも見えるし、作者の心境も出て

きますね。

節子さん。

△重くてもきつと心は軽くなる

どうも最近こんなふうに、正反対のものを並べて「AだけどB」というような表現が流行になってますが、使いすぎはちよつと感心しませんね。

それと「重くても」と、上五で説明というか言い訳というか、ダメ押しをしている感じね。たとえばですけど、

○梅雨越せばきつと心も軽くなる

上五は「梅雨晴れ間」でも何でもいいから違うものを持つてくる。それと、ここは「心は」ではなくて「心も」ですよ。

節子　はい。

新子　茅笑子さん。

△波打ち際足を濡らしたまま日暮れ

これもね、「波打ち際」ですから、「足を濡らす」と言わなくてもいいでしょう。

○波打ち際満ち潮になり日が暮れる

これで説明から脱します。

句のパターンを変えてみる

新子　孝明さん。

△木の芽合えあの娘が香るもう一本

飲ませません。(一同笑) ここはお酒に逃げずに、木の芽和えに焦点を当てましょう。

○木の芽和えふつと娘を思い出す

それと孝明さん、「木の芽あえ」の場合は「合う」という字ではなくて「和」という字を使ってくださいね。

孝明 ああ、そうでしたか。ありがとうございます。

新子 文擴さん。

△ほろ酔うてするめ焼く手が好きになる

若いねえ。(一同笑)でも、「するめ焼く手が好きになる」では平凡ね。ここはちょっと、川柳ならではの意地悪にしてみますよ。

○ほろ酔うてするめ焼く手も少し古い

「古い」を相手の手に見る。意地悪ですが、もののあわれが出るでしょう。そうすると言外に愛情がにじみ出てくる。

文擴 ありがとうございます。

新子 利秋さん。

△原点はあなたと言って笑われる

利秋さん、ちょっとパターンが似たような感じになってきましたね。何かを言ったりしたりして笑われる、そういうのもいいんですけど、少し方向を変えてみましょう。

○原点はあなたと言ったことを悔い

少し物足りないと思われるかも知れませんが、ここで利秋さんにはちょっと脱皮して、ペーソスのあるユーモアを目指していただきたいんです。

利秋 はい。

新子 気に入らないの？

利秋 (あわてて) いえ、そんなことないです。(一同笑)ありがとうございます。

リズムに注意する

新子 文子さん。

△犬も私も踊る緑の風の中

きれいですね。でも、せっかく「犬も私も踊る」と言ってるんですから、もっと楽しくしましょう。

○犬も私も踊るボンポコリンの中

玉江さん。

△あれ効くこれ効くなんの小さな手がさする

「なんの小さな手がさする」これ、どういうこと？

玉江 はい、いろいろ薬とか薬草とか、あれが効く、これが効くって勧められますけど、それより何より、こうして小さい手でさすってもらう方が効く、ってことですけど。

新子 ああ、「そんなものより」という意味？ よくわかりませんね。それと、この「小さな手」ってお孫さんでしょう？

だったらはつきり「孫の手」と書けばいいのに、どうしてみなさん、孫がいることを隠されるのかしらね？

玉江 いえ、隠してません。(一同笑)

新子 とにかく、これはちよつとおあずけ。もう一度考えてきてくださいね。

芙佐子さん。

△冷雨降るナースコールを父は離さず

芙佐子さん、ちよつと最近リズムが悪いですね。五七七になつてます。あなた独自のリズムと言えはそうなんですけど、やっぱり川柳のリズム、五七五を守るようにしてね。ここは、上の五音をそのまま下に持ってきてください。

○ナースコールを父は離さず氷雨降る

何度も申しますが、上五は重くなつてもいいんですよ。下が六音とか七音とか重くなつたら上に持つてくる。これがリズムを整えるコツです。

芙佐子 はい。ありがとうございます。

勢いも時と場合

新子 佳津子さん。

△発車ベルもしもしもを吹き飛ばす

これは佳津子さん、ちよつと勢いがあり過ぎます。「もしももしも」はいいですよ。ここは「発車ベル」をもっと生かして、ペーソスを出したい。

○発車ベルもしもしもはなかったね

睦子さん。

△日溜まりに亡父はいるらし胡蝶舞う

睦子さん、これはちよつと言ひ過ぎ。亡きお父様に「胡蝶舞う」ではね。ここはお身内ですから、ちよつと控える。

○日溜まりに亡父はいるらし声もなく

睦子 ありがとうございます。

新子 萌さん。

△君が花清貧の名に夏椿

何かのポスターみたいね。(一同笑) ちよつとぎくしゃくしてますね。せめて、

○花ならば君 清貧の夏椿

ところで「君が花」って、これ、どういうこと？

萌 はい、夏椿の清貧な感じがぴったりの方にお贈りしようと思つて作つた句なんです。

新子 他人様にお贈りするの？ それじゃあ「清貧」は失礼でしょう。「清貧」を違う言葉にするとか、ちよつと考えてみてね。

萌 はい。

動作をつなげる

新子 篤子さん。

△ミルクティーゆつくり飲んで老いてゆく
「ゆつくり飲んで」だと「ゆつくり」なのが飲む動作だけです。これは言葉の順序だけです。

○ミルクティー飲んでゆつくり老いてゆく
これで動作がつながりました。

知子さん。

△散りざまはしつかり恨み持ち椿

「散りざま」というからきつい感じになるんですよ。それから、「恨み持ち椿」では表現がこなれていない。ここは「しつかり」と「持つ」をつなげます。

○散り際の恨みしつかり持つ椿

かなり直しましたが、いいですか？

知子 はい、ありがとうございます。

新子 美智子（H）さん。

△羽根の跡なぞる指先初夏の風

これは美智子さん、ちよつとくどい。「羽根の跡」はいいですから、「指」か「風」かどっちかにしましょう。

○羽根の跡少ししみます初夏の風

貴美子さん。

△新緑に空気を詰めて夢旅行

これはねえ、貴美子さん……。

貴美子 おかしいですよねえ。先生のお顔見てたら「この句変や」って言うてはりますわ。（一同笑）

新子（笑いながら）そうね。ここは「新緑を詰める」でしょう。だから、あつさりとか「カバンに詰めて」と言ってしまうですよ。

○新緑をカバンに詰めて夢旅行

貴美子 はい、やっとすつきりましたわ。（一同笑）

二重丸の句

新子 咲子さん。一句マルです。

○木の芽草の芽私わたくしにある狂いの芽

これは「わたくしにある」としたのがいいですね。安易に作ると「わたしにもある」としてしまいがちですけど、そうしなくて正解。木の芽や草の芽には罪はないんですから「わたくしに」なら自分だけが罪をかぶることになるでしょう。いい句でした。

あいさん。マルです。

○夏帽子去年の人はもう忘れ

いかにも「夏帽子」ですね。これが冬帽子だったら、十年でも二十年でも箱に入れて取っておきますが、夏帽子だと毎年買い換えますよね。それを「去年の人はもう忘れ」と言ったのがうまい。いい句でした。

いち子さんが、今日のご褒美、二重丸です。

◎はつなつの鏡に不機嫌な私

これは川柳の意地悪精神が、自分に向いて成功しました。はい、いち子さん、おめでどう！

【二同拍手。いち子、当番の用意した賞品を笑顔で受け取

る。その後、兼題の披露と席題の合評があり（ここでは省略）、質問の時間となる】

題と具象

新子 それでは、質問タイムです。（何人か手を挙げる）はい、美輪さん。

美輪 あ、今日の席題「写す」で、「写」ではなくて映像の「映」ではないかと思ったものがあつたんですけど。

新子 そう。辞書ではどうなってる？

美輪 はい。「写す」は写真、模写、書写など、「文字やものの形を写す」という意味で、「映す」は「鏡などに映像や姿を映す」という意味合いです。

新子 じゃ「鏡は映」と覚えたらいいわね。そういった細かい意味合いは、作るときは間違えないように調べた方がいいですね。でも、選ぶときは緩やかに、よい句を選ぶという気持ちが必要です。とにかく、あまり理屈っぽくならないように。何度も申しますが、理屈は時として文芸の邪魔になりますから。

はい次、孝明さん。

孝明 私も題のことですが、たとえば「音」という題の場合、「ね」と読むのは使ってはいけないうか？

新子 「ね」と読んでもいいですよ。全く「音」から外れた意味で使ってはいけません。『音色』でも『声音』でも、『音』の意味で詠んでいけばいいんです。とにかく、作り手は「おと」を作ろうと思つて作る。選者は緩やかによい句を選ぶ。先ほどと同じことです。

次、武明さん。

武明 はい。具象のことですけど、句想といいますか、思いがあつて具象に託すのか、具象から句想を思いつくのか、ということなんです。

新子 それは基本は句想が先でしょうね。ただ「うれしい」「かなしい」では文芸として伝わりませんから、それを伝達する媒体としての具象に託すわけです。でも、ケースバイケースですから、具象から句想に行つても構いませんよ。

武明 その具象の見つけ方ですが、なかなか見つからないんです。

新子 何でもいいんですよ。たとえば紫陽花だったら紫陽花を見て、そこから連想をふくらませていく。自分に題を出すつもりで、身近なものをとにかく句にしてみてください。

はい次、きよのさん。

きよの はい。さっきの席題で、

淋しいを写す 淋しい人が来る 萌

これは具象が出ていないんですけれど。

新子 そう、これはかなり高度なテクニクです。ここには隠れた具象があるわけですが、たとえば「景色」とか「空」とか「海」とか、そういった具象が省略されていますね。この句は具象を出していないために、無限大に広がるんですよ。そして大事なのが、一番淋しいのは作者だということね。こういう省略してふくらます句というのは、なかなか作れません。安易に省略せずに、まずは具象をきちんと使うことから始めてください。

というところでお時間ですね。それではみなさん、また次回お会いしましょう。



新子教室

5

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 (机の上にある特選の賞品の包みを見て) 今日の賞品はなあに？

のぶを 干支の絵馬です。こっちは先生に。

新子 ありがとう。もうそんな季節ね。(包みを開けて) まあ、かわいい。(干支を机に立てる) のぶをさんの作品よね。この間のぶをさんにいただいたイチヨウのブローチ、あれ私てつきりトンボと思い込んで「トンボをありがとう」なんて言っちゃったのよね。ごめんね。(一同笑) では、行きますよ。

つなぎは要か不要か

【最初に、前回兼題で没となった句から学長が「これは」と思っ

た句を抜き、読み上げる落ち穂拾い(ここでは省略)。続いて雑詠の講評に移る】

新子 うららさん。

△茜雲使い熟せぬフルネーム

何じゃこりや。(一同笑) この「熟せぬ」ってどう読むの？

うらら 「こなせぬ」です。

新子 そんな読みあった？ 辞書にあるの？

うらら はい。

新子 まあ。知らなかったわ。みなさん知ってた？(一同首を傾げる) 朝から勉強になったわあ。(一同笑) でも、こういうときはルビをふってほしいわね。

うらら でも、ふったら失礼かと思つて。

新子 いいえ、ふってください。ところで句ですけどね。どういう意味？

うらら 自分自身を使いこなせない、使い切っていないというような意味です。

新子 ちょっとわかりづらいわね。ここは上下を入れ替えるとかわりやすくなります。

○フルネーム使いこなせぬ茜雲

新子 裕子さん。

△オブラートでブライド包み持ち歩く

これは説明ですね。「で」があると説明調になります。おまけに「オブラート」で「包む」では全くの説明ね。ここは現在進行形にしますよ。

○オブラートブライドこぼれつづけてる

プロセスの中途を詠むんですよ。こうすると、すぐ破れるオブラートの薄さとか、湿気に弱いところまで浮かんできますね。

由紀子さん。

△鴨の首真後ろ忘れ物多し

私の句にもへ人形の首まうしろを見てしまう〜ってありましたけど、人形とか鴨とか、首が真後ろに回るのよね。フクロウなんかぐるりと回って怖いよね。

この句はつなぎが全然ありませんね。それと「真後ろ」と言わずに、ちよつと控えましょう。

○鴨の首短し忘れ物多し

ね、ユーモラスになるでしょう。こうすると、鴨の持つてる性格というか、白鳥に負けてる、といったところまで出てきます。私も首が短いから女優になれなかったのよね。(一)

同笑)

佳子さん。

△漠として空今宵の私包み込む

最近佳子さん「今宵」が多いねえ。

佳子 はい。何でもか使ってしまひまして。

新子 ちよつと使ひすぎです。それに「今宵」という表現は、どうしても抒情に流れますね。ここはつなぎを入れて、

○漠として空は私を包み込む

意地悪精神

新子 素子さん。

△ポケットに無垢なハンカチしまい込む

これは「無垢な」が言いすぎ。「白いハンカチ」で十分でしょう。それに、ただしまい込むんではおもしろくない。

○ポケットの白いハンカチ役立たず

擬人法というか、ハンカチを人間みたいに扱います。ほら、白いハンカチって冠婚葬祭とかには要りますけど、実際、汗とか手とか拭くのには向かないでしょう。それを「役立たず」と言ってしまう。この意地悪精神が川柳です。

秋の子さん。

△絶食の友と分け合うみかんの香

これはご病気なのかしら？

秋の子 はい、病気で食べられない状態の人を詠んだんですけど、ダイエット中と間違えられそうだな、と後で気付きました。(一同笑)

新子 そうね。それと、何度も申してますが、どうしても「友」というのが感動を呼びにくいんですよ。いくら秋の子さんにとっては大事な友人でも、私には他人やしねえ。(一同笑) これもちょっと意地悪にしますよ。

○絶食の友へみかんの香を届け

分け合ったりしません。(一同笑) ちょっと意地悪やけど、絶食の邪魔はしない、という思いやりもあるのよね。

少し力を抜いて

新子 貞子さん。

△手も足ももう要らないと達磨の目

「もう要らないと」では弱い。ここはもう少し強くしてみましよう。

○手も足もともと要らぬ達磨さん

訓子さん。

△虎落笛深夜の議論暴走す

これは、はじめから終いまで強いですね。あんまり強い表現ばかりだと、逆効果になってしまう。肩に力が入っていると失敗するのと一緒ですよ。

○虎落笛深夜の議論寂しがる

「寂しかり」でもいいですよ。こうして、ちよつとどこかで力を抜くことが大切です。

女里さん。

△胸を刺す度胸があれば今いない

怖いねえ、度胸なくてよかったね。(一同笑) これも少し力を控えめにして、

○胸を刺す度胸があれば あの時

この中七の後は一文字空けてね。これで後悔とか、今のつらさが表せます。

のぶをさん。

△ここだけは私が拭くと湯灌する

これはその……阿部定の部分のこと？

のぶを はい。勝新太郎さんが亡くならはって、湯灌の時、他の人がしたら玉緒さんが「ここは私がします」って言い合ったそうで、それを詠んだんですわ。

新子 はあ、勝新さんと玉緒さんねえ。今日はいろいろ勉強になるわあ。(一同笑) 気持ちはわかるけど、「ここだけは」と言うから局所に行ってしまうんですよ。もうちよつと穏やかに、

○湯灌する誰にも触らせぬあなた

これぐらいにしておきましょうよ。

前向きに体当たり

新子 牧子さん。

△枯葉撒きパフォーマンスはもう終わり
終わりではダメ。まだこれから、ダンスとか、いろいろやってみる方がおもしろいですよ。

○枯葉撒きパフォーマンスはこれからよ

美智子(H)さん。

△燃えかけのまま残ってるカレンダー

私残すのキライ。(一同笑) ここはいさぎよく、

○燃えかけのままカレンダー終わりとせ
こうすることで、余計さびしくなりますよ。

清美さん。

△国訛り拒んだドアも開けてみる

これどういうこと？ 国訛りを拒んでいるドア？

清美 いえ、訪問販売とか勧誘とか、いろいろ来るんで拒んで閉ざしてきたドアやったけど、国訛りを聞いてやさしい気持ちになって、開けてみようかなど。

新子 あら。私逆に取ってたわ。「国訛り拒んだ」と来てたから、てっきりドアが国訛りを嫌がってるんだと思ってた。それなら(国訛り聞こえてドアを開けてみる)でしようね。でも、どうせなら国訛りを聞くとうとしない頑なな都会の冷たいドアを詠みましょう。

○国訛り拒んだドアに体当たり

これで、拒まれたことにめげない人の一途さも出ます。

風子さん。

△憔悴の男の指の美しさ

うまいけどね、これは誰でも作れる句です。風子さんには、

単に「美しさ」で終わってほしくないですね。

○憔悴の男の指を弄ぶ

憔悴しきって、ぐにやぐにやになった手っておもしろいよ。

(一同笑) それを弄ぶ。こうでなくっちゃね。

発想の転換を

新子 ひろこさん。

○赤い紐結び直して死出の旅

この間、週刊朝日の選してたんですけど、「結ぶ」の題で、七割が「赤い紐」でしたよ。どうして「結ぶ」イコール「赤い紐」だの「赤い糸」だのなるんでしょうねえ。まあ、おかげで選ぶの楽でしたけどね。七割よけて、残り三割から取ればよかったから。(一同笑) だから同一発想は損だと言ってるのにね。

この句は雑詠ですから、それとは関係ないですが、赤い紐を死出の旅に結びつけた発想がよかったですね。

光子さん。

○葉箱底まで探しあきらめる

この最後の「あきらめる」がいいですね、川柳的な意地悪

精神が出て。いじましく探して、胃腸薬なんか出て来ちゃうんでは、おもしろくないですからね。

千都子さん。

○追いかけてほしい横目で振り返る

千都子さんは成長株ね。この句も、何でもないうで、「横目」ってところがおもしろい。追いかけてほしくて、未練がましく横目で振り返ってる姿が浮かんできます。いい句でした。

今日の特選です。千衣子さん。

◎猫の毛が男の胸に付いている

どこで付けたのかなあ。(一同笑) まあ千衣子さんのところは夫婦で飼ってる猫の毛がくっついただけなんですけどね。でも、想像するといろんなドラマが楽しめますよね。

「猫の毛」だけじゃなくて、他のものもくっついてきたみたいですね。はい、千衣子さんおめでとう！

【一同拍手。千衣子、笑顔で賞品を受け取る。その後、兼題の披露に移る。選者は受講生が交代で務める(ここでは省略)。続いて、互選の時間になる】

主体は誰か

新子 それではみなさんが選者のお時間です。いきますよ。

① 母がまあ煙草のありが打ち明けるのぶを 十三点です。

新子 二点の人。ひろこさん。

ひろこ はい。禁煙しているお父さんがいて、お母さんが煙草を隠してる。お父さんの体のことを考えて、愛情のこもった句やと思いました。

新子 ええ？ 煙草吸ってるのはお父さんなの？

裕子 私もそう思いました。うちの父がヘビースモーカーやから。

清美 私もそう思いましたけど、「まあ」が効いていると思います。思いやりの気持ち表れて。

新子 はあ。父の煙草ねえ。私はてつきり母の煙草かなあと思ってたけど。

千衣子 私も煙草吸う人間やから、これは母がこっそり煙草吸ってて、それを打ち明けたんやと思いましたわ。

新子 作者に聞きましょう。作者は？

桂 桂です。千衣子さん正解です。

新子 やっぱりそうよね。キッチンドリンクカーやないけど、隠れ煙草ね。意外や意外、お母さんが実は煙草吸っていると打ち明けた、というところよね。「まあ」がユーモラスで楽しいですね。

② 惹かれます煙草の匂いする言葉のぶを 八点です。

新子 凧子さん、二点入れた理由は？

凧子 はい。「煙草の匂いする言葉」というのがいいなあと思いました。煙草吸う人の言葉と、吸わない人の言葉は違うなあと思つて。

新子 そう、そこに気付いたのがいいね。作者は。

清美 清美です。

新子 清美さんでしたか。いいところに気付いたわね。

③ この人の煙草もいつか煙くなる

新子 (二斉に手が上がる) すこいわね。林のごとくといったところね。

のぶを 二十四点です。

新子 二点の人、どうぞ。

秋の子 はい。うっとうしくなると、煙草も煙くなるの、よ

くわかります。

サハラ 私は「いつか」に、何回もそういうことのあった、

大人の恋だなあと感じました。

桂 私も、今は煙たくないけど、いつかはそうなる。「も」

に何度もそういうことがあったと感じました。

新子 そうね。他には？ 後になればなるほど言うことなく

なるよ。(一同笑)

うらら 私は、恋の虚しさというか、さびしさを感じました。

光子 私は恋人に限らず、倦怠期の夫婦とも取れるんじゃないかと。

牧子 私は、煙くなるのが嫌ではないのではないかと思うんですが。

新子 それがイヤになるのよ。(一同笑) 心底キライになる

のよ。他には？

美智子(H) 私は、きつともう冷めかけてるんだろかなと

思いました。

新子 そうね、時間的経過ね。もうみんな言った？ 作者は？

千都子 千都子です。

新子 千都子さんだったの。よかったわね、いい句でした。

「その後も互選で活発に意見を交わし、互選終了。残りが質

問時間となる」

俳句と川柳の境界

新子 それでは質問タイムです。はい、のぶをさん。

のぶを あの、私は俳句を新聞やテレビで見るのが好きで、

結構よう見てるんです。俳句と川柳との境目を考えるのがお

もしろくて。それで、新聞の俳句欄にある句でも、もし川柳

の方に投句されたらどないかなあ、と思う句がようあるんで

すわ。たとえば、

春雨を教えてくれし猫を拭く (作者不明)

この句は川柳としてみたらどうでしょうか。

新子 そうねえ、「教えてくれし」というところが、川柳的

ではないわね。(春雨の手触り猫を拭いている)という具合

だったら川柳になります。

この句は、見つけの句ね。じゃじゃ降りの雨じゃなくて、

降ってるか降ってないかはつきりしない春雨を、外出した猫

の毛が濡れていることで感じたわけですから。でも、「教え

てくれし」という仕立てがやっぱり俳句ですね。

とにかくこれは、春雨を詠んではいるけど、主役は猫で

しょう。川柳だったら人間を中心にしてほしいですね。人間、

それも作者が入ってくるためには「手触り」が要ります。猫の背中を撫でて、春雨を感じる。

それと、「拭いている」と現在進行形にした方が、動きが出ますね。川柳は人間に焦点を絞って詠む。そこが俳句との違いです。

はい次、うららさん。

うらら あ、先生の本に「川柳は気持ちを吐く」とか、「喜怒哀楽の『喜』や『楽』を詠むのは難しい、『怒』や『哀』は句にしやすい」とあるんですけど、私はどうもそれが苦手なんです。個人的に、吐くことも別にないし、怒も哀もないんで。（一同笑）それで、自分の句の方向性がわからなくて

新子 あら、うららさんにはユーモアがあるじゃないの。

うらら はい。でも、どうも軽くついでいけないように思うんです。それで、どうにか軽くならないようにできないかなあと思ひまして。

新子 そうねえ。軽いというのは一概に悪いわけではありませんよ。川柳の三要素にも「笑い」「軽み」というのがありますし、軽い足さばきというのは大切なことです。

それに、うららさんはネア力なんやから、あなたが深刻ぶってネクラな句を作ろうという方がおかしい。（一同笑）

あなたのうららかな、ユーモアの句がみんなを癒してるところがあるんだから。それって貴重な存在よ。

うらら はあ。でも、軽くならないようにしたいんです。

新子 そうね、軽いというよりは浅いというのが問題ね。ヒントとしては、ペーソスを下地にしたユーモアをめざすことです。

三要素の残りの一つは「穿ち」ですが、これはまあいわば塩味ね。ちよつと穿った見方をして、笑いに少量の毒を入れる。川柳的意地悪精神ですね。

でも、ペーソスのないユーモアは、笑ったらそれで終わりの、底の浅い句になってしまいます。だからペーソスのある泣き笑いの句を目指すこと。大丈夫、このまま今のまま作り続けなさい。私が見て、いい句はいただし、底の浅い句は落としますから。

というところでそろそろお時間ですね。それではみなさん、次回またお会いしましょう。



新子教室

6

実況中継

千津子 はい（と句箋を受け取る）。

半歩抜け出す

【まず前回の兼題の没句から、学長が良い句を再選して読み上げる落ち穂拾い（ここでは省略）。続いて雑詠の講評に移る】

新子 みなさん、こんにちは。

一同 こんにちは。

新子 それじゃさっそく始めましょうか。今日のお当番は？

ひふ はい、私と美智子（Ｔ）さんです。

新子 じゃ、落ち穂拾いから行きますよ。……あら美輪さん、

どうしたの？

美輪 はい、今日の兼題の選者がまだ決まっていないんです。

新子 まあ、そう。先月は哲彰さんだったわね。名簿ではど

うなってる？ まだ選者やってない人は。

美智子 （ノートを調べて）千津子さんがまだです。

美輪 じゃあ千津子さんお願いします。

千津子 （少し狼狽して）私ですか？ 私自信が……。

新子 あらダメですよ、逃げちゃ。みんな順番にやっていた

だくんですから。

新子 禮子さん。

△人が逝くこんなに青い空なのに

これはね禮子さん、類句が多いの。「青い空なのに」とか「いい季節なのに」とか。そこからちよつと抜け出すには、

○人が逝くこんなに青い空だから

あまりにもきれいすぎる空だから、神様が連れていつてしまった。こうすると句がぐつと深まります。

禮子 ありがとうございます。

新子 靖子さん。

○冬蛩ひらり舞い降り雪の花

きれいですね。「冬蛩」という言葉がまたいい。情景が浮かぶ句です。

靖子さんのもう一句、

△ポットの湯お茶を飲みましょまだ十時

これは「ポットの湯」が当たり前すぎます。こういうときは、ちよつと他のものを持ってきたましよう。誰かと一緒に飲むとか。たとえば、

○猫正座お茶を飲みましょまだ十時

猫ってお行儀いいのよね。(一同笑)猫と一緒にお茶を飲む。こうすると、一層優雅なお茶の時間になります。

花梨さん。

△未練心雲になってゆくつらら

これはもつと「未練心」を生かしましよう。

○未練心つららになつてゆく雲

花梨 入れ替えるんですか？

新子 そう。つららが解けて雲になるのは当たり前ですが、雲が固まってつららになるのはよくよくのことですよ。こうすると、執着心というか、未練心のしつこさが出ます。

花梨 ああ、なるほど。ありがとうございます。

自分を投影する

○嘘通す一生一度の演技して

いいですね。一生二度の、必死の演技で嘘をつき通すかなしみ。いい句でした。

ここは「いっしよいちどの」と読んでね。「いっしよいちどの」では八音になってしまいますからね。

美智子さんのもう一句、

△死の宣告知らずに過ごす白の中

「死」イコール「白」では付きすぎ。それに、「宣告」という言葉そのものが強いでしょう。だから「死の宣告」では強くなりすぎます。

○宣告を知らずに過ごす白の中

「死の」と言わなくても十分伝わるでしょう。ちなみに「宣告」を「告白」に変えると、おめでたい句になります。白は慶弔どちらにも当てはまりますからね。

和子さん。

△片付けができなくなったオジギソウ

オジギソウも、しょっちゅうお辞儀ばかりしてるから疲れるわよね。(一同笑)ここはもつと自分に引きつけて、

○片付けが億劫になるオジギソウ

オジギソウになりきって詠むんです。わかりますか？

新子 美智子さん。

和子 はい、ありがとうございます。

新子 由季子さん。

△かき餅は干され焼かれて膨れ出す
はい、さよか。(一同笑) これもね、由季さんが入っていない。もつと自分を入れて、

○かき餅の干され焼かれる日も近し

由季子 「かき餅の」ですか？

新子 そう、「かき餅が」じゃないですよ。「の」としてください。かき餅のように、干されたり焼かれたりする日も近い。こうするとぐつと句が深まります。

由季子 はい。

説明からの脱却

新子 ひふさん。

△厚着して身動きならず手紙書く

「厚着して身動きならず」ではまるつきり説明ですね。どうせなら、

○厚着してもそと動いてポストまで

こうすると、厚着のせいで身動きもうまく取れない様子が

浮かんで来ます。

ひふ ありがとうございます。

新子 馨子さん。

△あなたへの設定温度低くする

これも馨子さん、説明になってます。説明調の句は、たいてい上五が要らないことが多い。こういうときは中七から始めますよ。「あなた」に限定しないで、

○設定温度低くしている待ち合わせ

こうすると、心の設定温度がどんどん下がっていくのが伝わります。

馨子 ありがとうございます。

新子 光江さん。

△外食の夫待つてる梅茶漬

これも説明ですね。「外食の」と言わなくても、夫の帰りが遅いのをそのまま詠めばいいんですよ。

○夜も更けて夫待つてる梅茶漬

哲彰さん。

○朝昼晩と妻の顔色よく変わる

「まあ朝昼晩とよう変わるなあ」うちの夫もこう思ってるんでしょねえ……。 (一同笑) おもしろいですね。ちなみに下五が「見えています」だと、奥さんの顔をうかがっている哲彰さんがかわいそう、という句になります。 (一同笑)

朝子さんが今日のご褒美です。

◎今そこに生まれ来ようとする双子

朝子さんは「双子」に「ふたり」とルビをふつてらっしゃるけど、ここは素直に「ふたご」でよろしい。新しい命の、それも双子だから、倍の力強さを感じますね。はい、朝子さんおめでとー！

【一同拍手。朝子、笑顔で賞品を受け取る】

無理な読み方

【次に受講生が交代で選者を務める兼題の披露 (ここでは省略)。続いて互選の時間となる】

新子 それではお当番さん、お願いします。兼題「山」。

① 山を越え谷を渡った時もある

美智子 二点です。

新子 素直な句ですね。作者は。

朝子 朝子です。

新子 そう、朝子さんらしいわね。でも注意したいのは、「山」という題だけど「谷」も入っていて、山だけに焦点が当たってないでしょう。川柳は「二句一詠」です。題詠の時は、できるだけ一つに焦点を絞るようにしてくださいね。

次の句です。ええと、これ、何て読んだらいいの? 「とつぎこ」「とつぎむすめ」……。

② 嫁ぎ娘を思いだしては山椿

美智子 ○点です。

新子 これは作者に聞いてみましょう。作者は。

光江 光江です。「とつぎこ」です。

新子 そう。「とつぎこ」はちよつと日本語として無理がありますね。これは無理に五音にしようとしすぎ。「嫁いだ娘」という意味でしょうか。だったらそのまま「嫁いだ娘を」か、嫁ぐのは娘と決まっているから「嫁いだ子を」でいいんですよ。光江 でも先生、そうすると五七五にならないんですか。

新子 いいえ、上五は多少頭でっかちでも構いません。ほら、

京都の大原女と想ってください。上五は六音でも七音でも、中七下五が守られていれば、ちゃんとリズムが生まれますからね。

光江 はい。

軍配はどちら

新子 次の句です。

③ 目の力大きな山をうならせる

すごい力ね。私の句にもへいっぴきの男葬る目に力〜というのがありますが、山をうならせるというのは、発想がユニークね。

美智子 五点です。

新子 二点の人。朝子さん。

朝子 はい。眼力というか、すごいなあと思ひまして。自分の思ったことは貴く、強い意志を感じました。

新子 そうね。作者は。

花梨 花梨です。

新子 花梨さんだったの。これはね花梨さん、「目の力」を「目に力」とすると、もっと力が入ります。「目に力を込めて」の省略形ね。

花梨 ああ、なるほど。ありがとうございます。

新子 次の句です。

④ 飛んでみる山の向こうを知りたくて

(一斉に手が挙がる) まあ、すごい。みなさんこういう句がお好きなのね。「山のあなたの空遠く……」カール・ブッセだったかしらね。

美智子 十二点です。

新子 じゃ二点入れた人。哲彰さん。

哲彰 はい、人生を感じます。平凡の中に希望がある句だなあと。

花梨 私も「山のあなた」じゃないですけど、未来があつていいと思いました。

和子 私もそうですが、「越えてみる」じゃなくて「飛んでみる」だから、なおいいなあと思います。

新子 あとはみなさん一点ね。作者は。

馨子 馨子です。

新子 そう。馨子さんよかったわね、大勢の人が共鳴してくださって。

次の句も「山の向こう」ね。

⑤ 幸福は山の向こうと信じた日

美智子 六点です。

新子 山の向こうに幸福がある。ますますブツセね。作者は……あら。

馨子 はい、馨子です。

新子 まあ、この句も馨子さんだったの。さっきの句と同一発想ですね。ちなみにどちらが句として上だと思えますか？（一同考える）これはね、こちらの方が上です。「信じた日」で、かつては信じていたけど今は信じていない。そういう作者の現在位置が出ている分、こっちに軍配です。わかりますか？

馨子 はい。ありがとうございます。

新子 納得してないみたいね。（一同笑）

インターバルを取る

新子 次の句です。

⑥ 暗い山はさみ夫婦の顔してる

私の三点も入れてね。

美智子 七点です。

新子 二点の人はいいわね。では私が一生懸命説明しないと。（一同笑）この句は「暗い山」と導入から重いですね。

夫婦にはいろいろなありますよね。子育ての苦労とか、愛情の問題とか、それ以外にも。何か重苦しい問題、それをうまく「山」に象徴させています。「夫婦の顔してる」というものいい。策もなく、黙って、一応夫婦らしく向き合っているよね。「暗い山」の作者は。

靖子 靖子です。

新子 靖子さんでしたか。いい句でした。

⑦ 振り向けばいつもの山が聳えてる

美智子 九点です。

新子 二点の方はおられない？ でも大勢の方が共鳴してくださったわね。いつもの山の作者は。

哲彰 哲彰です。

新子 哲彰さんだったの。いいわね、振り向くといつもそこにある山。まるでお父さんみたいに高く聳えて……。

哲彰 いえ、母のつもりだったんですが。（一同笑）

新子 あらまあ、お母さん。

哲彰 はい、人生振り返ると、母の存在が大きかったなあと。

新子 はあ、山みたいに聳えてるの。なるほどね。でも、山と言えぱやっぱり父じゃないかしら。母は海よね、どつちかという。（一同うなづく）

それと哲彰さんに注意したいのは、いつも句を鑑賞なさるとき、すぐ人生に結びつけるでしょう。何でもそうすぐ直結させないで、適度にインターバルを取ってください。まずは六甲山とか摩耶山とか身近な具象を素直に味わって、しかるのちに心象とか人生を読み取ってくださいね。

哲彰 はい。

集中力の訓練

【合評に続いて席題（二題）と三分間吟（二題）の披露（ここでは省略）。最後に質問の時間となる】

新子 それでは何でも聞いてください。つまらない質問と
思って遠慮しないでね。はい、光江さん。

光江 あの、私席題がどうも苦手なんです。その場で題を言
われて短い時間で作るのは、どうしても難しいと思ってしま
うんですが、これはやっぱり練習しかないんでしょうか。

新子 そうね、これはやはり何度もやって、こつこつ積み上
げて行くしかないでしょうね。席題というのは、集中力の訓
練なんです。お家でもやってごらんになってください。ご
自分で題を考えて、砂時計なんかで三分計ってね。意外と、

そういうパツと作った句の方が、一カ月もかけてじっくり考
えた句よりもいいときもありますからね。

とにかく出来不出来はいから、題に集中して作るんです。
普段からやっている、だんだん身についてきますよ。

はい次、馨子さん。

馨子 はい。二月号の先生の句で、

〈だんだんと沼があつたまるキケン〉この句は「キケ
ン」とカタカナ表記なのが気になったんですが。

新子 そうですね。表記については、もうセンスと気持ちの
問題なんです。これは「危険」と漢字で書くほどの危険
じゃないんです。だから「キケン」。

他にも、ダイアログ（対話）にしたい場合とかね。たと
えば同じ号で、

〈もしもしモシモシもう鳴らないフーガ〉

これは電話で私が「もしもし」とひらがな、向こう側の娘
が「モシモシ」とカタカナです。これが全部ひらがなではモ
ノログ（独白）になってしまいますけど、ひらがなとカタ
カナにすることで、二人の会話になるでしょう。

こういった表記については、「二句一姿」ということに尽き
ますね。一句一句、その句に合う姿を考えて、漢字にしたり

ひらがなにしたりカタカナにしたり、一番気持ちにぴったりくる表記を考えてください。

リズムを守る

新子 はい次、禮子さん。

禮子 はい。選をするときですが、音が足りなくて五六五だけれど、内容がいいという句は抜いてもいいんでしょうか、それとも落とすべきでしょうか。

新子 ええ、落としてください。「一字足りない」とか「多い」とか思っても、直して入選にしたりしてはいけません。下手に親切心を出すと、かえって作者に失礼ですよ。勝手に直すというのはね。一字多くても少なくても、出されたままの句を選んでください。

はい次、靖子さん。

靖子 はい。先ほどの合評の光江さんの句のとき、上五は多くていいとおっしゃいましたよね。そうすると、上五は守らなくても良くて、中七はしっかり守らないといけないんでしょうか。

新子 そうです。中七は柱ですからね。上五は多少重くて

も構いません。中七と下五が守られていればいいリズムになります。六七五とか七七五とか、頭でつかちにするのはOKです。七音が一番落ち着きがいいですが、同じ十七音でも七七五はリズムがよくありません。頭が重くても七七五の方がリズムがいいのです。

あと、破調でもリズムのある句もあるので注意してくださいね。さっきの合評の和子さんの句もね、

〈子等抱いて私あの頃山んばだった〉

いい句でしょう。私の読み方もいいのよ。(一同笑) この句は五七七になっていますが、それをあまり強調しない読み方をするのが親切。音読するとき、破調だと気付かせない。五・七・五と区切らず、リズムカルに一息に読んでくださいね。でも、まずはしっかり基本形の七七五を守る癖をつけてください。基本ができないうちに崩すと、五七五に戻れなくなりますからね。ただ、「とつぎこ」のように、あまりにも無理がありすぎというのはいけませんよ。どうしても基本形におさまらないときは頭でつかちにしてみてください。それで落ち着くはずですよ。

そろそろお時間ですね。それではみなさん、また次回お会いいたしましょう。

新子教室

7

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 今日は朝からひどい雨ね。あんまりみんなが「よう降るねえ」って褒めるから、余計降るのかしらね。(一同笑)
それでは始めますよ。

【最初に前回の兼題の没句から学長が再選して読み上げる落ち穂拾い(ここでは省略)。続いて雑詠の講評に移る】

具が多い句

新子 郁子さん。

△苦杯舐めむくむく戻れ干しわかめ

これはね郁子さん、ちよつと具が多いの。「苦杯舐め」が

言いすぎ、と言ってもいいわね。もつとシンプルに、

○立腹へむくむく戻れ干しわかめ

これで悔しい気持ちは十分表せます。

郁子 はい。

新子 恵美子さん。

△春キャベツはがしきれない芯の鬱

これも具が多いですね。具が多いと、どうしても散文的になります。省いて膨らませるのが韻文ですからね。

○春キャベツそうかお前も芯の鬱

「そうかお前も」ということは、「私も」ということでもあるわけです。これで句に膨らみが出ました。

武明さん。

△照れるから早朝そつとする善意

これもやっぱり具が多い。それと、上五が説明になってるんですよ。早朝にそつといいことするのは、照れ屋の善人ならではのすからね。ここは「一日一善」という言葉があるんだから、

○一日一善は早朝そつとする

この方がすつきりしてるでしょう。

必然性の有無

新子 文子さん。

△この春はオセロゲームの恋終える

「オセロゲームの恋」というのはおもしろいけど、もう春も終わったからねえ。ここは過去形にしましょう。

○この春はオセロゲームの恋だった

この方がしっくりきますよ。

文子 はい。

新子 気に入らないの？

文子 いいえ、入りました。(一同笑)

新子 気に入ってないみたいね。(一同笑)

いち子さん。

△とりあえず目先の石を取り除く

これは川柳と言うよりアフオリズム(箴言)になってますね。ここはつまらないものを持ってきて、

○とりあえずレールの石を取り除く

「玄關の石」でもいいですよ。お説教とかアフオリズムにならないためには、抽象的なものではなく具象が必要です。

いち子 ありがとうございます。

新子 美輪さん。

△しつかりと間違えなさい紋黄蝶

これは「紋黄蝶」でなければならぬという必然性が感じられません。下五が動くんですよ。「しつかりと間違えなさい揚羽蝶」でもいいし「黄金虫」でもいい。ここは紋黄蝶を生かしましょう。

○また道を間違えている紋黄蝶

紋白蝶でもない揚羽蝶でもない、あのちょっと独特な紋黄蝶ならではの、という句にしなくてはね。

美輪 はい。

説明になっている句

新子 きよのさん。

△砂を吐く懺悔懺悔のアサリ貝

これはね、きよのさん、「砂を吐く」が説明。アサリが砂を吐くのは当たり前ですからね。

○見ていると懺悔懺悔のアサリ貝

これで十分、懺悔の気持ちは伝わってくるでしょう。

文枝さん。今日は貴美子さんがおられないけど、聞こえますか？

文枝 はい、聞こえます。先生のお声はしっかり全部聞こえます。(一同笑)

新子 わかりました。文枝さんには負けるわ。(一同笑) 作品に行きますよ。

△近づけば自由を奪う蜘蛛の糸

人間でもこういう人いますね。でも、中七が説明になっています。蜘蛛の糸が自由を奪うのは当たり前でしょう。

○近づけば何と厄介蜘蛛の糸

こうすればからみついて、自由を奪われる様子もわかります。

世津子さん。

△突然に余裕をなくし本音出る

世津子さんも中七が説明になってますね。余裕をなくして本音が出るのは当たり前ですからね。ここは違うものを持てきましょう。たとえば、

○突然に電車が入り本音出る

この方がドラマ性が出ますよ。

世津子 はい。

新子 篤子さん。

△波打ち際で白い光と戯れる

これは上五が説明ね。「波打ち際」という場所を限定するのはいいのですが、「で」を使うとどうしても説明調になるんですよ。

○波も私も白い光と戯れる

これで「波打ち際」と言わなくても、ああ海辺なんだなとわかります。

リズムを大切に

新子 玉江さん。

△発つときはいつも無言になるツバメ

これは玉江さん、たった一字変えるだけです。

○発つときはいつも無口になるツバメ

「無言」だと人間だけど、「無口」なら人間以外にも使えますよね。これで単立ちの淋しさが表せます。

玉江 はい。

新子 芙佐子さん。

△新月にウサギ刺すよう高きコンドル

川柳的な目

これはリズムがよくありませんね。五七七だから悪いと言
うではありませんよ。「新月」でしよう、「ウサギ」に「コ
ンドル」でしよう……。具が多いから、ごちゃごちゃした印
象になってるんですよ。もうちょっとシンプルに、

○新月を|目|かけて|コンドルは飛んだ|

ここはコンドルを生かしました。月とウサギでは「つきす
ぎ」ですからね。

美佐子 はい。ありがとうございます。

新子 萌さん。

文子 お休みです。代わりに聞いていきますので、お願いし
ます。

新子 そう。誰も私を休ませてくれないのね。(一同笑)

萌さんの、

△一日だけなら|天使にもなれる|

これもリズムが問題ですね。それと、「天使にも」の「も」
が散文的です。ここは字余りになっても、

○一日だけなら|天使になれる| なんてみる

この方が句意がよく通ります、とお伝えください。

文子 わかりました。

新子 南子さん。

△噛み付いて|ポキッと折れた|糸切り歯

南子さん、糸切り歯って噛み付いてもポキッと折れるもの
じゃなくて、欠けたりグラグラしたりするものでしょう。

ここは自分の老いを出しましょう。でも南子さんはまだお
若いから、「老い」なんて詠むのはお嫌かしら。

南子 いえ、そんな。(一同笑)

新子 でもね、どんな人にも老いに気付く瞬間というのがあ
ると思うんですよ。そこを描くのが川柳です。

○噛み付いて|気付く|老いたる|糸切り歯

貴美子さんはお休みですね。文枝さん、お伝えくださる？

文枝 はい。

新子 じゃあ、お願いしますね。

△言わないで|君ならきつと大丈夫|

きつと貴美子さんは、わかったような顔をして「あなたな
ら大丈夫」なんて言っただけじゃない、ということをおっしや
りたかったんでしょうけど、ここはちよつと意地悪にします
よ。「言わないで」と言われた立場になって、

○言わないで念を押されて言いふらす

私あの「誰にも言わないでね」っていうの嫌い。言ってほしくないなら、最初から言わなきゃいいのよね。(一同笑)

新子 美智子(H)さん。

△コンビニで弁当買っている主治医

これはどういうこと?

美智子 そのまんまなんです。私の手術してくれた主治医が、コンビニでお弁当買ってるのを、たまたま見かけまして。

新子 そう。でも、このままだとスケッチで終わってますね。私だったら、やっぱり主治医には毅然としていてほしいですから、

○コンビニで見かけた主治医頼りなし

こんな姿見たくなかったわ、というところまで言ってしまうのが川柳です。

美智子 ありがとうございます。

似たフリーズに注意

新子 啓三さん。

△ドミノ倒しの真ん中にある迷子札

これは「真ん中にある」というのがよくわかりませんね。やはりここは「ドミノ倒し」の特性を生かして、

○ドミノ倒しに押し倒される迷子札

利秋さん。

△卓球を短気な人に誘われる

確かに卓球って、せっかちな人がよくやりそうですね。でも利秋さん、このところ「誘われる」という表現が多いですよ。同じ表現をあまり多用するのは感心しませんね。

○短気な人は卓球が好きらしい

これで十分、利秋さんの言いたいことは伝わります。利秋 はい。ありがとうございます。

新子 幸生さん。

○降りそうで降らぬ 私のようである

これは幸生さん、近來まれにみるヒットね。ファールだけど場外ホームランってところです。(一同爆笑)

美輪 (笑いながら) 先生、それ褒めてないですよ。

新子 あら美輪さん、褒めてるのよ。この「降りそうで降らぬ」はありふれたフリーズですが、「私のようである」と持ってきたところがお手柄です。

幸生さんのもう一句だけど、

△我に似るインクのでないボールペン

これも似たような句ね。

幸生 はい。ちよつとことん自虐的になってみようかと思
いまして。

新子 そうですか。でも、これは「我に似る」が少し堅い
印象ね。

○私もインクの出ないボールペン

それと、これはみなさんも気を付けていただきたいんです
が、雑詠を二句なら二句出すときに、同じような句を出さな
いこと。似たようなトーンの句を並べると、どうしても損を
しますよ。気を付けてくださいね。

俊和さん。

△罪の水吸って真白い花咲かす

俊和さんもうも最近「罪」という言葉を多用する傾向が
ありますね。ちよつと作為が見えます。ここは「罪の水」と
言わなくても、

○水道の水で真白い花咲かす

リズムと訴求力

【雑詠の講評の後は、受講生が交代で選者を務める兼題の披
講と、全員が選者になって席題の合評を行う（ここでは省略）。
最後に質問の時間となる】

新子 それではどうぞ。武明さん。

武明 はい。二句一章についてお聞きしたいんですが、これ
はやはり、十七音でないといけないんでしょうか。たとえば
十六音だったらいけないとか。

新子 いいえ、そんなことはないですよ。十五音でも十六音
でも、成功していれば構いません。一番音数が少ないのは「武
玉川」で、これは七・七の十四音ですね。まあ川柳大学では
あまり見かけませんし、私はおすすめしませんが。

たしかに二句一章は破調が多いですね。これはやはり、声
に出してみることが肝心です。声に出して読んだり、披講
するときに、破調だと感じないように読める、ということば、
ちゃんとリズムがあるということですからね。

でもやっぱり具体的に、この句はどうだろうというような
例を挙げて欲しいですね。どうしても見本がないと、抽象的
な話で終わってしまいますから。

武明 はい、次回までに具体例を探してきます。

新子 次の人、ひろ子さん。

ひろ子 はい。先ほどの雑詠の私の句で、

飛んでゆけ春の埃^よプライド^も

実はこの「春の埃もプライドも」の部分で、「も」ではなくて「よ」にしようかしら、と後から思いまして。

新子 つまり、

飛んでゆけ春の埃^よプライド^よ

ということかしら？ だったら、「よ」の方が断然訴える力が強くなります。「よ」は呼びかけですからね。

訴える力が強い句というのは、やはりよい句です。でも、これも句によつては、あまり強いつかえてよくない場合もありますから、やはり一句一姿ですね。この場合は、けだるい春、何もかも……ですから、「も」の方がいいですね。

ひろ子 はい。

よみこみについて

新子 次、きよのさん。

きよの はい。先ほどの席題ですが、玉江さんの句で、

〈兄さんにばかり三十歳の娘の甘え〉

題の「甘い」に「甘え」はよかったんでしょうか。私氣になつて、選べなかったんですけど。

新子 そうね、いい句だと思つたら選んでもらつていいんですよ。人間の感情で、「甘い」も「苦い」もありますしね。

いち子 先生、じゃあ「甘茶づる」はいかがですか。

新子 アマチャヅルはいいと思いますよ。たしか甘いでしょう。ほら、四月八日の花祭りの日に、お釈迦様の像にかける甘茶。あれはアマチャヅルから作るのだったかしら。

美輪 はい、たしか昔は「甘葛^{あまがせ}」といつて、甘味料代わりだったと思います。

新子 そう。とにかく、甘いことには変わりはないわね。でも、いつも申していることですが、細かいことよりもいい句かどうか集中してください。枝葉末節を後から疑問に思うのはいいですが、選ぶときは文法とか、辞書的意味にこだわらずにいいこと。そしてもちろん、作るときは、純粹に題に即しているかどうかにこだわってくださいね。

(注・後の調べで「アマチャ」と「アマチャヅル」は別の植物だとわかりました。甘茶を作るのは「アマチャ」でユキノシタ科のヤマアジサイの一種、「アマチャヅル」はウリ科の生薬の一種です。また、昔甘味料として用いた「甘葛」は、ツタ(ブドウ科)のこ

とでした。お詫びして訂正いたします)

俳句との違い

新子 次の人。幸生さん。

幸生 はい。どうしても私の場合、句が堅いというか、理屈っぽくなってしまうんですが、理屈から抜け出す方法というのはあるのでしょうか。

新子 そうね、それは幸生さんが「いい人」だからじゃないかしら。どうもね、あんまり善人だと、なかなか「日常」から出られないのね。日常そのままでは文芸、特に韻文にはなりません。散文やエッセーならそれでもいいですけどね。「いい人」というのは、どうしてもキレイな目で見て、キレイに映ったものを、キレイに表現しようとする。それはでも、川柳ではなく俳句ですね。俳句は十を七ぐらいに抑えて表現しますが、川柳は十を十二ぐらいに言う。少しホラ吹いて、オーバーに言ってやろうとするんです。たとえば「くしたい」というところを、「くした」と言い切ってしまう。その辺りが、俳句との性格の違いですね。

とにかく、やはりここはちょっと「ワル」になってください。もちろん、普段の生活は、今のまま善人でいらしてください。

それで川柳を作るときは、少し日常を踏み外す。それがポイントです。

はい次、文擴さん。

文擴 はい。切れ字についてうかがいたいんです。この間、「川柳には切れ字がない」という趣旨の文を読んだんですが、「俳句には切れ字があるが、川柳は切れ字がない。だから切れ字の入っている句は川柳ではない」といったような。

新子 あら、失礼な。俳句の専売特許というわけではないんですから、使っていないということはありませんよ。

確かに川柳は、俳句のような切れ字の使い方はしませんけれどね。「や」「かな」「けり」を俳句と同じように、詠嘆として使ったりすることもあります。たとえば「かな」を疑問形で使うこともありますし、「だな」の代弁役をさせることもある。その点俳句よりも自由に用いているといえます。

でも、安易に使いすぎるというのは感心しません。「どうしてもこの句には切れ字が必要だ」というような、必然を感じさせる使い方を考えてください。

そろそろお時間ですね。それではまた次回お会いしましょう。

新子教室

8

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 さあ、時は金なり。始めますよ。

「いつも通り前回の兼題の没句からの落ち穂拾いに続き、雑詠の講評に移る」

言外で言う

新子 萌さん。

△私の義理 義理チョコ分けて食べている

これはちよつと考え落ちね。義理チョコをいただくのも義理ということでしょう。少し整理しますよ。「私の義理」を生かします。

○私の義理 義理チョコ分けてもらってる
「食べている」と言わなくても、「もらってる」で十分わかるでしょう。

睦子さん。

△春が来たイカナゴ頬張る亡夫の笑み

「亡夫」は「つま」と読んでね。これは中八になってますね。
「頬張る」と言わなくても、

○イカナゴを亡夫と食べます春が来た

これで十分、亡きご主人も笑顔だと言外に出ます。

睦子 はい。

新子 利秋さん。

○仕事ほど体に悪いものはない

（句を聞いて一同爆笑）私、今週はこの句のとおり。木曜日がコープでしょう、金曜日がACCと審議会でしょう。それでくたくたになって帰ってきたら、「森」と「桜」がその晩にどーんと届いてね。「そんなに急がなくても」と自分でも思うんですけど、結局全部見えてしまって、気がついていたら夜がしらじらと……。 （一同笑） もう、参りました。（一同笑）
もう一句の、

△顔のない自画像 これが私です

利秋さん、顔あるじゃない。(一同笑) 言いたいことはわかりますけど、「これが私です」ではちよつと言いすぎ。

○顔のない自画像 今日が暮れてゆく
なんとなくそういう日もある、ということにしておきましょう。

読者に委ねる

新子 ひろこさん。マルです。

○見上げれば月の満ち欠け早いこと

あつさりしていいです。どうも最近私、あつさりした句が好きですね。考えて考えて、技巧を凝らして作った方には気の毒ですが。(一同笑)

ひろこさんのもう一句、

△いつの日かさがる手すりを磨いてる
イヤな女ねえ。(一同笑) これは「磨いてる」というから、甘えすぎになるの。

○いつの日かさがる手すりを見て通る

これぐらいで抑えても、頼れる手すりとか男性とか、横目でしっかりチェックしている感じは出るでしょう。

世津子さん。

△老いたのか妹たちがやさしなる

これは「やさしなる」が問題ね。たしかに関西では「やさしなつたなあ」とか言いますけど、話し言葉であつて書き言葉ではありませんね。それと「老いたのか」と答えを出してしまつて。ここは読者に委ねましょう。

○妹たちがやさしくなつたなせだろう

こうすると、言外に「老いたからよ」という答えが見え隠れします。

世津子 ああ、なるほど。

新子 喜代さん。

△チョコを撒く見向きもしない鳩がいる

そんな鳩放つときなさい。(一同笑) 豆じゃなくチョコを撒いたんでは、鳩は見向きもしないと。これは喜代さん、普通の人の目ね。これはバレンタインのチョコとはつきり言つてしましましょう。

○鳩の群れバレンタインのチョコを撒く

こうすると、言外に「見向きもしない人」がいるとわかります。

喜代 はい。

実際にやつてみる

新子 いち子さん。

○いい妻でいようと鬱になっている

わかるわあ。(一同笑) もうこれはみんな共感よね。「鬱になっている」が、でも、そんなに深い鬱じゃないところがポイントね。

いち子さんのもう一句、

△夜の深さに明日まで待てぬ朧月

どうもみなさん「朧月」がお好きねえ。これは「夜の深さに」が下と合わないの。もっと「朧月」に焦点を当てますよ。

○泣き始め明日まで待てぬ朧月

南子さん、マルの句です。

○断れぬ話だそうだ黄水仙

これはいかにも黄水仙ね。頼りになるという感じは、フリージアとか他の花ではちょっと出ないでしょう。この黄水仙は動きませんね。

南子さんのもう一句、

△手のひらは自由に返していいのです

ハア、さいですか。(一同笑) これは「手のひらを返した

ような」という表現が下敷きでしょう。どうも観念的すぎますね。ここはいつそ、本当にやつてしまいいましょ。

○手のひらを返してみよう試みに

とき子さん。

△如月や駅長さんは勤務中

「勤務中」では弱い。もっと動きを出しますよ。

○如月や駅長さんは挙手の礼

これで動きとか、目線まで見えてきました。

押す力

新子 俊和さん。マルです。

○ひび割れた微笑で君という二月

まあこれは「ごちそうさま」という感じですね。三万円ぐらいの会席料理をいただいたような。(一同笑) いいんですよ、詩的川柳と言いますか、「ひび割れた微笑」というところに、苦しさとかつらさとかがよく出ています。

もう一句の、

△頭も心もぶつける同じ隅っこに

まあ、お気の毒に。(一同笑) 頭も心もぶつけるんでしょう。

しかも同じ隅っこに。これはね俊和さん、「同じ」が要りません。「ぶつける」を重ねて、

○頭もぶつける心もぶつける隅っこに
これで痛さが強調できました。

あいさん。マルです。

○私だけにあげると言った柿の種
あるある、こういうこと。「君だけだよ」そう言つて、みんなにあげてたのよね、もう。(一同笑)

もう一句の、

△水彩の淡さよ胸にあるブルー

これはたつた一字よ、あいさん。「淡さよ」では弱い。もうちよつと強くして、

○水彩の淡さで胸にあるブルー

「で」には押す力があるんですね。「淡さで」というと、強さが出てくるの。わかる？

あいはい。

新しい言葉

新子 啓三さん。マルです。

○スローフードの中はラップと木枯らしと
「スローフード」って、ゆっくり手間ひまかけて作った食事のことよね。ファーストフードの反対というか。

啓三 はい、本当は「和食」としたかったんですが、リズムが悪いので。

新子 そう。だけど啓三さん、最近どうも流行りだした言葉をいち早く使う傾向がありますね。もうちよつと一般的になつてから使つた方がいいです。この句はいいのよ、「ラップと木枯らしと」で、その対極にあるものが伝わりますからでも、あんまり最新流行の言葉というのは、ごく少数の人にしかわからないということになりますからね。

啓三 はい、気を付けます。

新子 美輪さん。

△春一番もう少しやさしくなろう

「春一番」を下に持つてくると、六音だからと思つたんでしょ。でもこれではリズムがないですね。こういうときは、言葉を作ってしまうんです。

○もう少しやさしくなろう春二番

一番ではない二番だから、「もう少しやさしく」がよけいに生きてきます。それでもう他の人は「春二番」は使えませ

んよ。ああ、いいわよねえ。私がほしいわ、この言葉。(一同笑)
美輪 すみません、ありがたくいただきます。(一同笑)

新子 (悔しそうに) 惜しいわあ。(一同笑)

「少し」を使いすぎない

新子 惠美子さん。

玉江 お休みです。代わりに聞きしておきます。

新子 そう。惠美子さんの、

△言い訳も底をついたか照れ笑い

この「底をついたか照れ笑い」だけど、もう少し工夫がほしいですね。自分の言葉を使ってほしい。たとえば、

○言い訳もつきて図太い眉になる

こんなふうにしてください、とお伝えしてね。

玉江 はい。

新子 美智子(H)さん。

△捏造の申告をする幸福度

「申告をする」ではこなれが悪いですね。ここははっきりと、

○捏造の税申告の幸福度

いえ、美智子さんが税申告を捏造したなんて言ってます

よ。(一同笑) これくらい言ってしまった方が「幸福度」が生きてきますからね。

玉江さん。

○百人に一人ならばと並んでる

わかるわあ。(一同笑)「百人に一人」だからいいのよね。これが千人に一人とか、宝くじみたいな確率だったら並ばないですからね。これはクイズめいてますが、微妙な欲の心理がよく出ています。

玉江さんのもう一句、

△少し幸せ満月空に貼り付ける

「少し」って便利な言葉よね。ただ、みなさんに言えることですが、最近ちよつと安易に使いすぎです。ここは「少し」が要りません。

○幸せで満月空に貼り付ける

平凡から脱する

新子 きよのさん。

○コウノトリ不思議なものを連れてくる

うまいですね。お孫さんのことでしょうけど、コウノトリ

の運ぶものって、なんか不思議よね。これは「連れてくる」がよく効きました。

きよのさんのもう一句、

△さらに透明さらに平凡福寿草

福寿草って透明かしら？ あれは透明じゃないよ、濁りまくってます。(二同笑) ここは平凡に徹して、

○陽光を浴びて平凡福寿草

篤子さん。

△悪夢覚め春の光に包まれる

これは篤子さんらしからぬ句ね。悪夢から覚めてホッとするんでは、当たり前でしょう。

○うかうかと春の光に包まれる

こうすると、春の光が平和とは限らなくなる。これで平凡から脱します。

ひろ子さん。

○鬼は外 背中にコンと当たる豆

この「コン」がいいですね。状況とか、音とか、思いがすべて出ています。

もう一句の、

△一つずつ壊して固くなる拳

これはプロセスはこのままで、止めてみましょう。進行形で、
○一つずつ壊しています拳骨で

「あたし」と「わたし」

新子 かづみさん。マルです。

○一かけるは一です一人です

これ私実際にやってみました。いんいちがいち、いんにがに……。 (二同笑) 本当に一なのよね。これは孤独の感じがよく出ています。

かづみさんのもう一句、

△あたしの中の河童が踊る春が来た

かづみさんは東京暮らしが長かったから、自分のことを「あたし」と言うのよね。うちの師匠の川上三太郎も東京の人だから、私の句にある「わたし」を全部「あたし」に直されたんです。それが私は気に入らなくて、また全部「わたし」に戻したんですが。(二同笑)

この句は「あたし」でいいんですが、「あたしの中の河童」では当たり前。ここは逆にして、

○河童の中のあたしが踊る春が来た

これがわかったら、三年分は得をしたことになりますよ。

文子さん。マルだけど、

○斑に咲くいつもおしゃれでいたいから

この「斑に咲く」ってどういうこと？

文子 おしゃれってことです。シマシマとか、水玉模様とか。

新子 そう。「斑」いうから、まだらにお化粧したのかと思っ
た。(一同笑) これはこのままでもいいですけどね、

○斑に咲くいつも私でいたいから

の方が数段上よ。このまま「おしゃれ」で印刷しますけどね。

文子 しまった、惜しいことしました。(一同笑)

言葉の力

新子 文擴さん。

○ニクロム線の淡い温さに母がいた

これは憎らしいほどうまいですね。「ニクロム線」という
言葉が憎いほど効いています。これはまさに母よね。母の句
は文擴さんに勝てない。いい句でした。

文枝さん。

○人生刻む九十の豆握りしめ

まさに人生ですね。この「九十の豆」というのがいい。し
かも「握りしめ」ですからね。いい句でした。

今日の特選は明子さんです。

◎雪が降る私の声が聴こえない

実に深くいい句でした。はい明子さん、おめでどう！

【その後兼題の披露、席題の合評と続き、最後に質問の時間
となる】

自分を悪者に

新子 さあ、時は金なりです。質問のある人。(数人が手を
挙げる) はい、利秋さん。

利秋 はい。職場の話なんです、忙しいときにあくびする
人がいて、それをどうしても句にしたかったんです。

欠伸して真面目な人に叱られる 利秋

本当は私が叱ったのを逆にしたんですが、それでよかった
でしょうか。

新子 自分を悪者にする手法ですね。それでいいんです。川

柳は他人の悪口を言わない。自分のことならなんぼでも悪く言っているんです。実生活はあくびもせず真面目に送ってくださって構いませんけど、句の上では今みたいに、他人のことを自分に置き換えて正解です。

はい次、かづみさん。

かづみ はい。さっきの合評で、

小さくなつて小さな息で笑ってる ひろ子

この句の下五を、私は「笑っている」とした方が好きだと思つたんですが、鑑賞でこういう態度は失礼でしょうか。

新子 それは一句一姿、ケースバイケースでしょうね。ちよつと重くしたいときは、下五が六音になつても「ている」としますが、この句の場合は深刻な状況だからこそ「てる」と軽く詠む方がいいんです。

とにかく選や鑑賞は「好き嫌い」だけでやってほしくないですね。「自分ならこうする」だけではなくて、その句のままの良さも認めることです。

観客を意識しない

新子 はい次、玉江さん。

玉江 はい。私、自分の句を推敲するとき「こういう言葉は若い人にはわかつてもらえないかもしれない」と思つて、勝手に自分で没にしていたんです。でも今日の文藝さんの「ニクロム線」の句を聞いて、それは間違いだったと気がつきまして。やっぱり「共鳴してもらえないかなあ」なんて考えず、無欲の方がいいんでしょうか。

新子 まあ、玉江さんともあろう人が、今ごろ何を言つてゐるの。全員にわかつてもらおうなんて思つたら完敗ですよ。自分に負けるの。

川柳は、たった一人にわかつてほしいと思つて詠むんです。それも究極は自分ですね。自分発の、自分に向けたわがままなものが文芸なんです。そんな大向こうを気にしてどうするの。玉江 でも「理屈と説明から抜けるのを課題にしない」と先生に言われまして、それから伝達性とか、説明にならんようにとか、ずっと考えてるんです。

新子 あのね、文芸の敵は理屈だと前から言つてるでしょう。理屈で考えるから、かえつて説明になつてしまふんです。観客を意識しないで、無心に作ることです。

そろそろ時間ですね。それではみなさん、また次回お会いいたしましょう。



新子教室

9

実況中継

新子 みなさん、おはようございます。

一同 おはようございます。

新子 さあ、今日も始めますよ。

答えが出ている句

新子 千都子さん。

△嫁という立場笑顔の輪の外で

これは千都子さん、説明過剰。「笑顔の輪の外で」まで言

わなくても、

○嫁という立場の美しい笑顔

これで十分、笑顔の裏の疎外感も出せます。

千都子さんのもう一句、

△指立てて正しき言い募る空虚

これも「空虚」で答えを出してしまっているわね。「空虚」

と言わなくても、

○指立てて今日も正しき言い募る

これで空しさは十分伝わります。

新子 美輪さん。

△真冬日の午前三時の朝ごはん

美輪さん最近、仕事の関係で早起きしてるのよね。

美輪 はい。本当は午前四時半なんですけど、リズムが悪いので。

新子 誰もそこまで聞いてません。(一同笑)それはともかく、これではただの近況報告よね。もっとドラマを作りましょう。

○わけあって午前三時の朝ごはん

これで意味深になりました。

大げさな句

新子 睦子さん。

明子 今日は急用でお休みです。代わりに伺って行きます。

新子 そう。睦子さんの、

△三毛猫は駆け落ち忘れ五十年

わかりますけど、猫って五十年も生きないよ。(一同笑)
ちよつと大げさね。(こ)はまあ、

○三毛猫は駆け落ち忘れ日向ぼこ

これくらいにしておきましよう、とお伝えください。

明子 はい。

新子 節子さん。

△大空を飛んで見つけた木守柿

これは節子さん、ちよつとオーバーね。もつと身近に、

○顔上げたときに見つけた木守柿

この方が作者の位置とか、心の位置まで伝わります。

明子さん。

△酸いぶどう歯の浮く返事は許さない

ぶどうを「酸い」って言う？ やっぱり果物は「酸っぱい」

でいいんじゃないかしら。それと「歯の浮く」はちよつと言
い過ぎ。

○酸っぱいぶどうのような返事は許さない

これで十分、歯の浮くような嫌な感じは伝わります。

欲ばりな句

新子 喜代さん。

△母が泣く半紙を走る筆の音

これは喜代さん、ちよつと欲ばりすぎましたね。川柳は一句一訴ですから、母か筆かどちらかにしぼりましよう。ここは筆の音を生かして、

○すすり泣く半紙を走る筆の音

玉江さん。

△星や星 芒ひんやり恋しい手

これも欲ばりすぎね。「星に芒に」恋しい手に……。 (一同笑) ここは動作を出しましよう。

○星は星 芒ひんやり手の中に

「星や星」ではありませんよ。「星は星」で「自分は自分」という強さが出せます。

玉江 はい。

具が多い句

新子 かづみさん。

△私卑怯で今日も明日も笑むだらう

これは「今日も」が要りません。「明日も」で「今日もそうだった」とわかりますから、

○私卑怯で明日も作り笑いする

「笑むだらう」じゃなくて、「作り笑いする」と言いきって

しまった方がいいですね。

ひろ子さん。

△指文字の心さらりと夜の波

これはひろ子さん、具が多い。「夜の波」ですから「砂文字」でいいんじゃないかしら。

○砂文字の心をさらう夜の波

動きを出す

新子 郁子さん。

△大樹から落ちる雫を受けている

ここは郁子さん、どんなふうを受けているかということころまで詠みましょう。

○大樹から落ちる雫に口開けて

これで作者の位置や姿勢まで、はつきり見えてきます。

とき子さん。

△真夜中のアサリ血圧や高め

真夜中のアサリに目を付けたところは良かったですね。ここは動きを出して、

○真夜中のアサリ血圧上げている

こうすると、ブクブク音を立てているところまで出せますよ。

南子さん。

△人肌が好きな曖昧な男

いやあねえ。(一同笑) こういう男、いる？ 幸生さんは違うねえ。俊和さんも……文擴さん……どうかなあ。(一同爆笑) まあともかく、「曖昧な男」ではちよつとね。ここは、

○人肌が好きなさみしさ分かち合う
こうすると、自分のさみしさも出せます。

利秋さん。

△焼き芋がアルミホイルに恋をした

ほつときなはれ。(一同爆笑) ここは利秋さん自身が焼き芋になつてしまう方が、ずつとおもしろくなります。

○アルミホイルに恋をしたので蒸し焼きに

半歩先へ

新子 幸生さん。

△切り花が香る命を断たれても

ここは幸生さん、もうちよつと先へ行きますよ。「断たれ

ても」じゃなくて、

○切り花が香る命を限られて

切り花になってもまだ生きてるんですよ。あと数日と限られた命。そこを詠んでくださいね。

幸生 はい。

新子 文子さん。(いつも文子が座っている方を見て首を傾げる) 文子さん、どこにいますの？

文子 (真ん中の席で) ここです、先生。席が空いてなかったもので。

新子 まあ、どこかと思った。(一同笑) このメガネ、老眼鏡ですからみなさんのお顔がよく見えないんですよ。かといって近視用だと文字が見えないし、いちいちかけかえるのも面倒だし。だいたいいつもいらつしやる辺りを見て勘で話してますから、みなさん、あんまり席変えなないでね。(一同笑)

それはともかく、文子さんの、

△小春日に無念の声が胸に落ち

これは「小春日」が要りません。もつと時間的経過を出して、

○ややあつて無念の声が胸に落ち

惠美子さん。

△雨の音怠け心をそのかす

これももう半歩先に行きましょう。

○雨の音怠け心に味方する

アンバランスな句

新子 いち子さん。

△逆上の果ての真昼野萩こぼる

この「真昼野」つていい言葉ね。でもちよつと「逆上」と「萩」がアンバランスです。

○ひっそりと遠い真昼野萩こぼる

アンバランスは成功する場合と不成功の場合とあります。ここはちよつとあまりにもかけ離れている感じだったので、萩を生かしました。

篤子さん。

△滝の位置かなりずれたと聞きながら

これは篤子さん、まだ句になっていません。句の素材といったところね。

篤子 すみません、そのとおりです。(一同笑)

新子 そうでしょう。ここは素直に、

○滝の位置ずれたニュースのすさまじさ

一字違えば

新子 俊和さん。

△砂の器に注ぎ続ける水と愛

これは俊和さん、大事なところですよ。たった一字、

○砂の器に注ぎ続ける水が愛

(一同感嘆)これこそ「二字違いで大違い」です。

俊和 わかりました。ありがとうございます。

新子 啓三さん。

篤子 風邪でお休みです。代わりに聞いてきてほしいとF A

Xいただきました。

新子 そう。啓三さんの、

△妻の声私の声風邪の声

これもたった一字、「邪」が要りません。普通の風にして、

○妻の声私の声風の声

この方が数倍さみしさが出せますよ、とお伝えください。

篤子 わかりました。

言外で言う

新子 知子さん。

△ずるいこと任せとばかりこぼる萩

知子さんは花を詠むのが上手ですけど、これはちよっと上
下がうまくつながっていません。

○ずるいことたくらむ缺笑う萩

こうすれば缺よりも萩の方がうわて、という感じになります。

萌さん。

△がんばれば明るく開く新回路

これはちよっと「新回路」が何なのか伝わりづらい。もつ
と身近に、

○がんばればギイと扉の開く音

これで明るく開いたということも伝わります。

美智子(H)さん。

△髪飾り逆さに付けて今日の運

これは美智子さん、「今日の運」では弱い。意志を持って
逆さに付けてるんでしょう？ だったら、

○髪飾り逆さに付けて運だめし

しみじみとした句

新子 博子さん。

○星を見る星に恋している人とおもしろいねえ。星に嫉妬してもしょうがないけど、でもという複雑な心理がよく出ています。

文枝さん。

○亡母の声聞きたくなくなって墓にいる

これは「墓に行く」ではなくて「墓にいる」が効きましたね。いい句でした。

本日の特選は、文擴さんです。

◎淋しさを故郷に送るみかん箱

普通は故郷から送られて来るんですが、逆に「故郷に送る」が効きましたね。しみじみとしたいい句でした。はい、文擴さんおめでとう！

本歌取りの是非

新子 それでは質問タイムです。（数人が手を挙げる）はい、知子さん。

知子 ああ、先生。私の句で、

トンネルを抜けると何もないところ 知子

この句は先生ほめてくださったんですけど、いつも小説とか、詩の一部とか使うと叱られるから（一同笑）、そのことについてお聞きしたくて。

新子 いわゆる本歌取りですね。今の句みたいにうまくできればいいんですが、これは必ずしも成功しません。知子さんは小説なんかの一節が気に入らなくて自分流に作りたくなるんでしょう。そうねえ、せいぜい年に三回、いえ、五回くらいまでだったら許しましょう。（一同笑）

知子 じゃあ今日ので三つ目ですから、まだ今年はあと二つはいけますね。（一同笑）

落ち穂拾い

新子 次の人。はい、かづみさん。

かづみ ああ、前回の五分間吟の落ち穂拾いで取っていた句で、

ジャムパンのジャムが少ないような恋 かづみ

私普段ジャムパンって滅多に食べないんです。それがたま前日に食べたんで、それで句になったんですけど。

新子 ああ、句の背景は語れば語るほど語るに落ちますね

え。(一同笑) 康浩さんだったと思いますが、(ジャムパンのジャムが片寄っている) という意味の句があったんですよ。これがあんパンじゃピンとこない。いかにもジャムパンという感じで、いい句です。それとはまた違った魅力を、かづみさんの句には感じたのでいただいたんですが。落ち穂拾いですから、捨てるには惜しいなあという句です。

かづみ ありがとうございます。

考えるより感じること

新子 次、明子さん。

明子 あの、十二月号の「木の実抄」で、

会えないね 私を通る冬の駅 翠子

この句がよくわからないんですが。

新子 そうねえ、よい句は全部解明できるとは限らないんですよ。この句も普通なら「私を通る」ですよ。それが「私を通る」となっている。これは文法的に言ったらおかしいということになるんですが、「私の中を通る冬の駅」ととらえると、作者の深い絶望が伝わってくる。不思議な句です。

明子 はい。いつもよくわからない句はほったらかしてるんですけど、わからなくても惹かれる句があるんです。

新子 そうね。「説明できないけれどよい句」というのは、無理に説明しなくてもいい。ただ「いいなあ」と感じてくださった方がいいんですよ。

明子 はい。

二句一章について

新子 はい次、利秋さん。

利秋 はい。さっきの合評で、

何か横切った真夜中の信号 千都子

この句は二句一章だと思うんですが、こういう二句一章の場合は、前半後半の間に句読点を入れるように作るものなんでしょうか。

新子 そうねえ、これは作った後で決まるものじゃないかしら。千都子さんも最初から「二句一章にしよう」と思って作ったわけじゃないでしょう？

千都子 はい、違います。

新子 そうでしょう。意識して二句一章の句つてできるものじゃないわね。二句一章の句は、五・十二とか、八・九とか、自然に切れるところで区切って読みます。句読点は読み手の心の中で付けねばいい。どうしても作者の側で「ここ

で区切ってほしい」という場合は、一字あけとか句読点を
使ってもいいですが、私は句読点は基本的に禁じています。

題詠の問題

新子 次の人。はい、文擴さん。

文擴 あの、題詠についてなんです、題を使わずに題を表
す場合、どこまでだったら許されるんでしょう。たとえば「信
号」という題で「スクランブル交差点」と詠んだりするのは
許されますか？

新子 ええ、それは許されます。同じ交差点でも、スクラン
ブルは信号がなかったら危なくて仕方ないしねえ。(一同笑)
住宅地なんかで、信号もないような小さな三叉路とか四つ辻
なんかは、ちよつといけないと思いますけど。

文擴 その境界線というか、人によっては「銀」という題だっ
たら化学式のAgでなければいけないという人もいます。た
とえば「銀髪」なんかは違うからあかん、とか。

新子 それは人それぞれですけど、やっぱり基本は「作り手
は狭く深く作り、選者は広く採る」でしょう。選者は自分の
それまでの全人生をそそぎ込んで採らなくてははいけない。化
学式まで持ち出すんでは、あまりにも狭い見方でしょうね。

ただやはりよみこみには注意が必要です。いつだったかの
東日本20題句会で、杉山昌善さんが「薬」という題の選者で
「薬指」を詠んだ句を選んだのよね。いくらなんでも
これはちよつとねえ。薬指を舐めて傷や病気が治ったりしな
いでしょ？ そのとき私が「これは完全なよみこみです」
と申しあげたもんだから、作者も「特選返上します」と言い
出したりして、まあ大変でした。今でも昌善さんはこのこと
を、明るく恨んでいらつしやいますが。(一同笑)

ともかく、題本来の意味をきちんと踏まえて、作者はでき
るだけ忠実に作る。選者はできるだけふところを広げて採る、
ということですよ。

そろそろ時間ですね。それではみなさん、また次回お会い
いたしましょう。



新子教室

10

実況中継

新子

みなさん、おはようございます。

一同

おはようございます。

新子

花粉症の方、いらつしやる？（数名が手を挙げる）お

大事に。（一同笑）もう「お大事に」としか言えないわよね。でもこれも、季節物ですからね、もうしばらくのご辛抱です。さあ、行きますよ。

リズムを大切に

新子

多恵子さん。

△呼ぶ声に自分の名が好きになる

多恵子さん、この教室何回目かしら。

多恵子

四回目です。

新子 そう。まだ始められて間もないから無理もないですが、どうも全体的にリズムが悪いですね。この句は「自分の名が」

と、真ん中が六音になってます。これは簡単に七音に直せま
すよ。「名」を「名前」にして、

○呼ぶ声に自分の名前好きになる

中七、真ん中の七音は句の要です。とにかく、中七は絶対に守ってくださいね。

多恵子 はい。

新子

萌さん。

△あっけらかんと居るのわいもうひとり

萌さんも、また「萌さん風リズム」になってますよ。いくら二句一章といっても、もう少しリズムを意識してほしい。ここは順番を入れ替えて、

○あっけらかんと居るもうひとりがわい

博子さん。

△携帯を押し押し二宮金次郎

博子さんにしてはリズムがないわね。これは「押し押し」が邪魔です。「押す」と言わなくても、

○携帯と歩く二宮金次郎

これで十分、押しながら歩く様子が伝わります。

一押し二押し

全部言い切らない

新子 南子さん。

△広場には今日もいろんな鳥が来る

これは「鳥」では弱い。ここはもう一押しして、

○広場には今日もいろんな人が来る

文枝さん。

△鏡の中に亡母を探して遊んでる

これはもう少し遊びましょう。「母をたずねて三千里」を

もじって、

○鏡の中の亡母を探して三千里

「鏡の中に」ではなくて「中の」にしてくださいね。

文枝 はい。

新子 ひろ子さん。

△嘴を隠し構える湖白鳥

「隠し構える」では弱い。ここはもう一歩踏み込んで、

○白鳥の嘴汚す覚悟する

子育てとか、そういう決意ですね。嘴を汚してもいい、と

いう覚悟。そこを詠んでほしいですね。

新子 花梨さん。

△芋の皮剥くすっかり頭空にして

これは花梨さんにしては報告で終わってますね。ここはも

う半歩踏み込んで、

○芋の皮剥くあのことを忘れたく

この先は読者に想像していただきますしょう。

奈保江さん。

△通ったよ うれしさ弾む孫の声

合格の喜びというところですね。ここは全部言わないで、

○電話口うれしさ弾む孫の声

奈保江 あら、私「通った」と書いてましたか。(一同笑)

いえ、実は作ったとき「電話」にしようか「合格」にしよう

かいろいろ迷って書いて、今見たらどれを出したんだか……。

(一同笑)

新子 ちょっと、しっかりしてね。みなさんも、きちんと句

帳は整理して、いつどれを出したのか印でもつけて区別して

おいてくださいよ。自分の句を忘れて何度も同じものを出し

たり、二重投句なんてことになったら大変ですからね。

奈保江 はい、気を付けます。

花と人と

新子 篤子さん。

△輪の中の匂いすみれは避けている

これは「輪の中の匂い」と「すみれ」で切るの？ それとも「匂いすみれ」って種類の花があるの？

知子 あります。そういう花。

新子 あのね、知子さん。私は篤子さんに聞いてるの。あなたに聞いたんじゃないでしょ？（一同笑）篤子さん、どちら？

篤子 「匂いすみれ」で一語です。

新子 あらそう。それなら直さなくてもいいわね（と、片付けかける）。

篤子 いえ、先生。違うことにして添削してください。（一同笑）

新子 篤子さんは賢いねえ。（一同笑）これは「輪の中」がポイントです。女同士の集団って、何人かのグループに分かれて、その中でもまた何人かずつに分かれるのよね。同じすみれでも、

○輪の中の三色すみれ避けている

この方が一層深くなりますよ。

双方向性を出す

新子 幸生さん。

△月並みに生きる己を誉めてやる

幸生さん、ちよつとご自分を誉めすぎ。（一同笑）自分のことは少し控え目に、

○月並みの己誉めたり悔やんだり

こうすると、ただ誉めるばかりじゃなくて、時に誉めたり、時に悔やんだりと、双方向の深みが出ます。

文擴さん。

△父を許すとそつと苦笑を^レしてる母

父もの母ものを書かせたら文擴さんですが、ちよつと変えますよ。

○父を許すとそつと苦笑を^レ返す母

こうすると一方向だけでなく、文擴さんとお母様の双方向性が出ます。

文擴 なるほど。ありがとうございます。

半歩進んで

新子 とき子さん。

△雖遊び闇より深い闇の中

これは「遊び」からもう半歩進みます。

○雖仕舞い闇より深い闇の中

布にくるまれて桐箱に入れられてね。この方が「闇より深い闇の中」が生きてきますよ。

知子さん。

△知らぬ間に動いて消えた心です

心って動くけど消えないよ。ここは無理にでも恋にしてみよう。

○知らぬ間に動いて消えた恋でした

「です」じゃなくて「でした」と過去形にしてね。

知子 (うつむいて無言) ……。

新子 知子さん、気に入らないの？

知子 いえ、いいです。(一同笑) 気に入りました。ありがとうございます。(一同笑)

説明を脱ける

新子 れい子さん。

ひろ お休みですが、お聞きしておいてほしいとご連絡がありました。

新子 そうですか。れい子さんの、

△送信メール返信なくて受話器取る

この句は説明になっています。「受話器取る」を外して、

○送信メール返信なくて胸騒ぎ

これで十分おっしゃりたいことは伝わります、とお伝えください。

ひろ はい。

新子 レイ子さん。

△細い糸ねじりよじって編む絆

これもやや説明的ね。「ねじりよじって」だから「編む」と言わなくても、

○細い糸ねじりよじって絆かな

理屈を脱ける

新子 貴美子さん。

△縁切れた桜の花が散った春

これは「桜」と「春」が重なるわね。桜ってたいがい春に咲いて春に散るものだから、わざわざ「春」と言わなくてもいいでしょう。ここは直喩で、

○縁切れたように桜の花が散る

空季子さん。

△存分に愛されたくて濾紙抜ける

ちよつと理屈っぽいですね。ここは「存分に」が要りません。リフレインで、

○愛されたくて愛されたくて濾紙抜ける

私はお一人お一人の個性を見て、それぞれでご指導させていただきますから、これが初心の方だったらここまでは求めません。空季子さんだから申しますが、空季子さんのような理知的な方は、ときどき「理」が邪魔になるんです。「理知」はいいんですよ。でもこれが「理屈」になったらいけないと思ってください。

空季子 はい。ありがとうございます。

自分を入れる

新子 文子さん。

△青い空|目刺の臭う日曜日

ちよつとね、これは「青い空」が広すぎて、焦点がぼやけてしまいました。ここはもう少し狭めて、

○坪庭に|目刺の臭う日曜日

これくらいにしましょうよ。

幸男さん。

△職探す男の降りた無人駅

これはハッキリ言つて机の上で作つた句ですね。いえ、幸男さんが職を探したというのは本当だと思ふのよ。でも「男の降りた」では他人事になつてしまふ。ここは自分を入れて、

○職探すことに疲れて無人駅

こうすると「無人駅」が生きてきます。

少しあつさり

新子 玉江さん。

△春の雪残る哀しみ捨てに来る

これはなぞなぞですね。ここはもつとスカツと言つた方がいい。「雪残る」を「残雪」にして、

○残雪の窪みに哀しみを捨てた

喜代さん。

△発車ベル絡めた指が|なお絡む

ねちねちと、いつまでも指と指絡めてねえ。私こういう別れキライ。(一同笑) いえ、いいんですよ、こういう別れがあつても。しかしこれは私のわがままですが、私だったら、

○発車ベル絡めた指が恥ずかしい
いつまでも絡めませんね。(一同笑)

由季子さん。

△これでもか憎みきれない血の濃さ

これは「濃さ」を「こいさ」「こゆさ」と読まないで、下四になってしまいますね。ただ「憎みきれない血の濃さ」では、ちよつとあくど過ぎます。もう少し穏やかに、

○これでもか憎みきれない血の絆
これくらいにしておきましょうよ。

少し屈折して

新子 かづみさん。

△不在証明あなたに宛てて書くハガキ

これはそのまま説明ね。ここはもってドラマにしましょう。
ちよつと屈折して、

○不在証明あなたに宛ててから家出

千都子さん。

△祝えない送別会の赤いバラ

これはちよつとズバリ言い過ぎ。「祝えない」では強すぎ

るから、

○とても苦しい送別会の赤いバラ

こうすると、曰く言い難い複雑な思いが出てきます。

智以子さん。

△父米寿息子の死など知らぬまま

これは智以子さん、日記に書いておく句ですね。ここはもう少し屈折がほしい。「父米寿」を下に持つてきて、

○息子の死知らされぬまま父米寿

屈折がないと「作品」にはなりません。今日の大事なポイントですよ。しっかり覚えておいてね。

智以子 はい。

社会吟の是非

新子 利秋さん。

△自決するひめゆりたちの手榴弾

利秋さん、どうしてもひめゆりから離れられない？

利秋 はあ……。

新子 私ね、社会吟が悪いとは申しませんよ。そういった歴史的とか、社会的なことも、考えていただいているんです。でもできれば日常は、もつとご自分のために使ってください

たいですね。

それと「ひめゆり」といったら、もう「自決」とか「手榴弾」とか、そこまで言わなくてもいいでしょう。あまりくどくど盛り沢山にすると、説明に終わってしまいます。私は、同じ詠むなら現在のひめゆりの塔を詠んでほしい。たとえば、

○ひめゆりの塔の周りの赤い花

これは一見写生のようですが、「赤い花」に悲しみとか哀れさとか、いろいろな思いを託すことができます。

市民権を得た語

新子 それでは質問の時間です。(数人が手を挙げる) はい、玉江さん。

玉江 あの、今日の席題で「自己中」という言葉が出てきたんですが、以前先生は「新しい語や略語は市民権を得なければ使つてはいけない」とおっしゃったと思うんですが、これはどうでしょう。

新子 そうねえ、このあたりの言葉は、ちよつと境目にあると思いますね。この中で「自己中」が分からない人、いる? (誰も手を挙げない) ……ね、みなさんちゃんと「自己中」が「自己中心的」とお分かりですよ。だいたい私は、八割以

上の方が分かるというのを境界にしています。ですから、もうこの語は市民権を得ているんじゃないかしら。

玉江 分かりました。ありがとうございます。

「はねる」について

新子 次、俊和さん。

俊和 はい。あの、「二物衝撃」についてうかがいたいんですが、これは「はねる」とは違うんでしょうか。

新子 また難しいことをお聞きになるのねえ……。 (一同笑) 確かに「意外なものを持つてくる」という意味では、お互いちよつと似ていますが、「二物衝撃」は全く異質な二つのものをぶつけ合つて、そのドッキングのパワーで衝撃が出てくる、というもの。つまり両方強いんです。「はねる」はそれに比べると、やや優しいからね。ウィットというか、上五中七と説明で来たところを、下五で軽く受けて、明るく笑わせるんです。

私の添削を受けている方はみなさんご存じだと思いますが、説明句の場合、たいてい私が直すのは上五ですね。上五に「のに」とか「だが」は禁物です。これを使うと、一気に句が理屈っぽくなります。何度も申しますが、理屈は文芸の

敵です。理屈を抜けるために「はねる」のは有効だと思えますね。

受動態と能動態

新子 次の人。喜代さん。

喜代 はい。あの、以前先生は「受身の句はあまり良くない」とおっしゃったと思うんですが、今日の席題で、

最終バスぐいと手首を掴まれる 喜代

この句を出そうかどうか迷って、結局出さなかったんですけど。

新子 それは動詞の題の場合でしょうか？ 今日の題は「パス」でしたよね。だったら何の問題もないですよ。掴もうが、掴まれようが、ご自由に。(一同笑)

つまり、動詞の題の場合、たとえば「追う」という題で、受動態の「追われる」だと、能動態の「追う」とはニュアンスが違ってくるでしょう。そういう意味なんです。もちろん選者の場合は「追われる」でもいい句だと思ったら、抜いていただいて構いません。ただ作る時は、それくらい題に忠実に作るようにしてください、ということですよ。

止めの形

新子 はい次、レイ子さん。

レイ子 あの、よく「川柳は言い切る」と言われるんですが、中には言い切らないものもありますね。その境目についてうかがいたいんですが。

新子 これはねえ、「俳句と比べて」ということなんですよ。

つまり、俳句はたいいてい余情を持たせて流すでしょう。それに比べたら、確か川柳ははっきり、スパツと言いつ切ります。

何年か前の統計ですが、川柳の止めの音として「る」「く」「う」「す」「し」という順に多い、というのがあります。その中でも「る」が一番多い。つまり川柳は終止形で止める、言い切るのが多いんです。柳社にもありますが、「し」で止める句は、現代はほとんどない。

ただし、十句とか二十句とか、ある程度まとまってお出しになるときは、ちよつと考えていただきたいですね。最後の音を「る」で止めた句ばかり並ぶと平板になる。ですから「る」「る」と続いたら、次は「く」や「う」で終わる句や、体言止めの句を持つてくる。たくさん並べるときは、そういうことも意識していただきたいですね。

そろそろお時間ですね。それではみなさん、また次回お会いしましょう。

わたなべみわ
実況担当・渡辺美輪
.....
Profile

「月刊川柳大学」神戸編集委員

(1996年～2001年)

現在 川柳誌「現代川柳」発行編集人



川柳大学十周年インタビュ―

(二〇〇六年収録)

時実新子に聞く ①

昨日今日明日

さらなる明日に向けて

—— 今年の二月で、川柳大学十周年になりますが、この十年の歳月をどう感じておられますか？

新子 平凡だけど、短かったか永かったか……。そう、事務局が神戸から東京へ移るといふ大変大きな出来事がありましたね。ま、柿なら柿、リンゴならリンゴ、果物なら神戸と東京半分半分が合体したという感じでね。つまり、初めから真ん丸の果物でなく、ふたつの異なる果物を割って合体させたというイメージなんです。

それが、継ぎ目がわからないほどうまくいって、私として

は一番ありがたかったです。編集の仕事が東京に移ったからといって、川柳大学誌自体の違和感はまったくないんですね。神戸をそのまま持ってきたような感じで、ただスタッフの人が代わったというだけで、精神はまったく変わっていないんです。事務局が神戸から東京へというのは、私にとってひとつの大きな決断であり、冒険であり、それがうまくいったというのが十年間で一番嬉しかったことですね。

—— お話の中に出てきた、変わらなかった精神とは？

新子 自分で言うのはおかしいけれど、芯が時実新子です。それ以外の芯は考えられない。誰がいてくださったということでなく、思い上がりはなだしきかもしれませんが、川柳大学はイコール時実新子だと思っています。

—— 私をはじめ、東京のスタッフは最初不安の塊でした。何を決断しようとしても、六郎さんや新子先生と距離的に離れていましたから。

新子 でしょうね。まどかも川柳のせの字も知らなかったし、まあ、最初の頃は六郎がいきましたけれど。でも、逆に神戸で

は、編集スタッフの皆さんに私の方が疎外されていたんですよ（笑）。つまり頭が二つあったからです。事務局長が曾我六郎氏でしたから。

神戸スタッフが考えていた川柳大学誌の中心は、曾我六郎だった気がします。ですから、私はめったに事務局へは行きませんでした。行くとするとい疎外感。一体だれの川柳誌だろうかって（笑）。そんな時、杣游さんが、「違う、時実新子がいってその川柳大学だって、六郎さんはご主人だから頭ごなしに何でも言われるが、そんなこと気にせず遠慮しなくても来たい時はいつでも来て、帰りたい時いつでも帰ればいい。自由になさったらいい」って慰めてくれました。だから、神戸事務局は、私にとっては辛かったですね（笑）。

——東京の事務局は、六郎さんに編集業務の基礎的な指導を受けた後、ヨチヨチ歩きで一人立ちするのですが、新子先生や六郎さんから距離的に離れていたことで、逆に仕事がいやすかったのかもしれない。勝手に企画し、勝手に会議して、判断を仰げばいいんですから。

新子 それは楽ですよ。それに私はアバウトにできていますし、編集という仕事が嫌いなんです。なにしろスケールで線

が引けないんですから（笑）。

——作家と編集は使う才能が違うと思います。両方ともできる人って、少ないのではないのでしょうか。

新子 そうなんです。それに、うちは夫婦でひとつ仕事を始めたので、それはもう毎日が戦争でした。本当に、神戸時代は私、暗かったですね。ですから編集業務が東京に移ってから、精神的にぐつと楽になりました。でも、その移行期、繋ぎ目が六郎も大変だったろうし、正直言ってまどかがかわいそうでした。川柳に何にも知識も興味もない娘を引っ張り込んだということね。六郎の手を離れ、やっと二年ぐらいしたあたりから少し面白味がわかってきたというか、この子、少し川柳に興味を持ってくれたなって……。また最近は編集という仕事も面白くなってきたみたいで、本当に心強いです。

——大丈夫です。まどかさんは、しっかり編集スタッフの要の役をこなしています。心強いですよ。

新子 最近、自分が弱ってきて、やめるとは言いえませんが「川柳大学もなあ……」と冗談まじりに言う。「いいえ、や

りますよ。新子さんは、すっかり病氣治してもらったらいんです。私やります」と言いますから。

親と子が人生で、入れ替わる時期があります。それが昨年だったような気がします。今まで、私が命令口調であれこれ言っていたのに、何か娘に命令されているようで、親子関係が逆転してしまいました（笑）。

——さて、十年が過ぎました。次の十年の川柳大学は？

新子 いつまで「時実新子の」というサブがついた表紙でいくかということです。私は、神戸から東京に移る時が取る時だと思つて提言をしたんですが、古い付き合いの皆さんからすごい反対に遭いまして……。『時実新子の』を外してどうするんだって、だから、そのまんまにしたんですが。

あと十年、いろいろご批判もあるでしょうが、それを蹴散らして、このままでいきたいと思ひます。

——そうですよ。新子先生は我々大学の校章ですから、新子先生という校章がなくなったら、生徒はてんぷら大学生になつてしまいます。どうか『時実新子の』は絶対外さないでください。

新子 はい、そうしましょう。

——これからの川柳大学は、どのような方向へ行けばよいのでしょうか。

新子 底辺の自然増はいけれど、大学誌の運営上として、会員さんや誌友さんの拡大は必要ありません。無理をしてほしくないんですよ。川柳大学を好きな人々の自然増はおおいに歓迎しますが、あ、この方は川柳に向いているぞという作者が見つかったら、いきなり作家にはできませんから、お花に水をやるような按配で育てていただきたいですね。そのために、六郎が提案し、現在も活動しているゼミという形、川柳仲間との付き合いを有効に使つてほしいということです。

川柳大学のスター誕生へ

——これからの川柳大学誌の方向は？

新子 スポーツを当てる会員さんや句が、横並びや総花的にならないことです。皆、ご一緒にではなく、スターの誕生

を目指してほしい。新しいスター、川柳大学の新しい冠がほしいですね。ですから、皆さんが川柳大学のスターを目指し、「私が川柳大学のスターになる」って、名乗り出てほしいんです。そうすれば川柳大学は、うまくいったらあと百年は残りますね。うまくいかなかったら、各駅に十人ぐらいの人数がいる駅前大学になってしまふ（笑）。

川柳大学の男性作家たちに

——この機会に、川柳大学の男性作家たちに何か注文がありましたら。

新子 もう、脱がなくてよろしい。諦めました（笑）。いや、脱げないことが性差なの。この十年、脱いでほしいとずっと思いつづけてきましたけれど、まあ、見苦しいだけ。

このごろ男の人は脱がない方がいいと思いはじめたんです。脱ごうとすると無理が見えるんですよ。時々脱ぎかける人がいますけど（笑）。脱いでやたら貧弱な筋肉を見せられるより、何か着てらっしゃる方がいいわ。

だけど、これだけは言いたい、心を時々旅に出してやってほしい。体は行かなくてけっこう。心を時々旅に出してやつ

てください。奥さんから、時々離れて一人になるのも旅。居酒屋で飲んだくれるのも旅なんです。まあ、しょっちゅう俺は一人だって言うてる人もおりますが、これは旅ではなくて家出（笑）。

それと、ニユースを句にしないこと。それでも情報過多の世の中なんですから。世間に流布されていること、つまりニユースを題材にしないでほしいですね。情報を句にしても、ユニークな文芸に昇華できません。これは男性だけとは限りませんが、そういう句がお好きな人は、そちらの川柳に行けばよろしい。

川柳大学の女性作家たちに

——では、女性作家たちには。

新子 「世間を気にするのは、おやめなさい」と言いたいですね。これは男性より、女性の方が多いかな。こういう句を作って姑との折り合いが悪くなったとか。気の毒ですね、それなら川柳やめなさいですね。お遊び川柳か、ゲートボール川柳をおやりになればいい。少なくとも、川柳大学で、作家を目指す人が姑なんかを怖がっていたらどうしようもない

(笑)。それと、よく脱いでいらつしやいますので、少し着てください(笑)。あの魅みたいにメリハリをつけて、濡れたら海綿のようにとことん水気を吸い、乾いたら実にカラランランになりますね。ですから、魅の持つているこの幅の広さを女性作家も持つてほしいですね。

私が「自分の胸の中を垂直に掘れ」って言うものですから、すぐくセクトで身勝手なで、混沌として訳がわからなくなつてしまつたのではないでしょうか。皆さんまでもで、この十年よく自分を掘りました。もう掘り尽くされたと思うので、ちょっと、化けてごらんになつたらどうでしょう。つまり、様々な人生を演じる女優。役者になつて一度舞台に立つぐらゐのフィクション性が、作句にも必要なことをわかつてもらいたいですね。川柳大学の女性作家は、あまりにも生真面目過ぎます。もつと、句の中で七変化、水噴いたり火噴いたりしてほしいですね(笑)。誰もそれをしないのがとても残念です。

私の才能を認め継いでくれる弟子は 肉親以上に愛しい

——師弟という言葉に、何を感じられますか。

新子 川柳界における師弟という言葉は、六大家時代に終りましたね。師匠とか先生とか呼ばれて、例えば川上三太郎が地方に行つたら、地方の弟子が総出でお出迎えに出るとか……ね。気がついたらいつの間にか自分たちの時代になっていました。これは自然推移でしょう。

川柳大学は、小さい商店ですけれど、よい意味での師弟関係を感じますね。この精神的な師弟関係は、比較的東の会員さんたちに多いのですが、これは、私とめつたに会わないからではないでしょうか。月一回とか週一回とか顔を合せていたら、師匠の尊厳なんかもう保てませんよ。夫婦と一緒にです(笑)。

——弟子としては、いつか師匠を超えたいとの野望があるのですが。

新子 弟子が師匠を超えたいという志たるや十分祝福するんです。ところが祝福すると瞬時に、やれるものならやつてごらんととなりますね(笑)。そこに、師弟の肉親以上の絆が生まれるのです。本当に自分の持つてゐる才能を認めてくれたり、受け継いでくれたりする弟子への愛しさは肉親以上で

すよ。

私は、四十六歳で「川柳展望」という最初の独立をしました。早すぎる早すぎると言ってくる人もあって、何が早すぎるかわからなかったんですよ。そうしたら、先生と言われるようになって、恋が向こうからやって来なくなった。これは寂しい……。先生は恋の対象にはならないのかしらね。男の師匠はその逆なんですけど（笑）。

—— 師匠・川上三太郎とは。

新子 川上三太郎に、口でも手紙でも句について具体的に教えてもらったことはないんです。出した句に○と×だけ。無駄話はよくしましたけど、それでも先生と思うのはどこだろうかって。私、川上三太郎の句にそんなに惚れていないんです。素晴らしいのは、その選句眼です。これは、日本一です。私も近づきたい。その点でも、私、いい先生についたなあと思います。選句眼、それとエッセーの上手さです。三太郎も本職ではないんですが、エッセーがものすごく上手い。それをこの間、まどかから「三太郎という人のエッセー、お母さん面白いね……」と言われて。ああ、まどかもその目が見えたかちょっと嬉しかったですね。彼のエッセーは江戸

調で、短いほど光っていましたね。「川柳研究」の毎号毎号にエッセーを掲載していたんです。ですから、私がエッセーでお金をもらえるようになったのも、この川上三太郎のエッセーを川柳といっしょに読むことで、自然と教えられたのでしょうね。ありがたいことです。

また、雑談の中からもいろいろと教わりました。

—— 師匠と弟子の相性って、ありますよね。

新子 あります、あります。相性の合わない師弟関係は、師匠にも弟子にもお互いに地獄ですね。世間から見ても、川柳大学にこの人ありという方もやめていかれましたしね。結局、相性というか周波数が合わなかったのでしょうか。

時実新子は、まだまだ発展途上

—— 先生、最近のご自分の句について。

新子 一句一句取り上げたら、私より上手い句はたくさんあります。ところが、その時自分で思うんです。トータルだトータルだって。トータルした時、今でも誰にも負けていません。時実新子は、最近、すごく下手になったと言う人がいるんで

す（笑）。自分でもわかつてます。それは、五十代の新子と七十代の新子が一緒だったら、それこそ文芸の狂でなく本当の狂人ですよ。今、私が五十代と同じ句を作って「上手いでしょう、上手いでしょう」と言っていたら、認知症ですよ（笑）。

私はねえ、下手になったと認めてはいるんです。ところが、下手の中には、下手の味があつてね。決して皆さんに負けたいとは思っていないの。思っていたら、巻頭二十句やめますよ。下手に見えるけど、五十代よりは深いんだよと、わかつてほしいのよ。今の若い人が巻頭二十句を読んでわからないとしても、その人が七十五歳になれば、きつとわかります。それはそうですよ人生の先に行っている人をわかれと言つても、わからないでしょう。そうしたらね、年寄りに二十代の瑞々しい恋がわかつてたまるかと言ふ人もいます。ところが、これはね自分が過去に通つて来た道だからわかるんです。いくら時代が変わつても、特に恋心なんて神代の昔からまるで変わっていないんですよ。だから選者が務まるのよ。

エイジエイジでいくんだつたら七十代の人、七十代ばかり集めて句会、三十代は三十代の集まり、昭和十八年組とか（笑）。ちつとも面白くないでしょ。やっぱり、老若男女、世代が交じつたところで、理解のしかた感受性がいろいろある

から文芸は面白い。そこに川柳の座の文芸という味もあるのよ。そうでなかったら、いつも同窓会をやっていることになつてしまいます（笑）。

だから、この句は負けたなあと思う時は嬉しいですよ。私、てらいでもなんでもなく、皆さんの方が、例えば晶子さんがこんな句作つたかと思つた時嬉しいんですよ。いいなあつて、しかし、トータルでやつてこいやつて（笑）。

——時実新子の明日は。

新子 私、時実新子の未来ですか。明日は変人、あさつては狂人となります。それで、明日とあさつての夜と朝の間に、私はまだまだ名句を吐くつもり。私は永遠に「作る作る」氣でいます。入院中も熱が下がるより、川柳が書けるか書けないか、それだけが心配でしたね。

時実新子の明日は変人、あさつては狂人です。





時実新子に聞く ②

作句編



自分で自分の胸を波立たせる……
それが創作の基本

——最近、私を含めてなんですが、作句するエネルギーがなくなってしまったというか。川柳が吐けないという声を聞くのですが。

新子 ついこの間川柳をはじめた人が「先生、私このごろスランプで、壁にぶつかってしまいました」とか、よく言うんですよね（笑）。その言葉を吐くには、ちょっと早いですね。昔は、吐けなくなるまで十年でした。でも、これは世の中のスピードと一緒に早くなってしまったのでしょいうね。

私たちの頃、三太郎先生がおっしゃっていたのは、壁にぶ

つかるのが五年目でした。十年と五年の間が、私の世代でしようか。この位の年数で、作家という「家」がつく人と、作者という「者」のまま、趣味で終わる人との分かれ道があるといわれています。

作家になる、「家」がつく人はごくまれですけどね。五年目あたりで作家になりますね。作家になることは、一字一句がいくらになるという金銭的な意味でなく、プロ意識というか、創作者——「作る」人になるという意味です。作家は小説・エッセーにしても、脚本にしても無から有を生んでいます。それは、創作（フィクション）するということです。

川柳も文芸のひとつ、創作です。ですから、自分の経験や日常から突き抜けて、句に「作る（フィクション）」が出てきたら、私も作家になったのだと自覚して下さい（笑）。

川柳も恋と同じです。終わりがありません。フィクションの量が多くなつて当然だと思います。永久にトリビアリズムといいますが、台所だけが自分の世界ではないでしょう。そこを波立たせるものこそ、創作です。作る作家の「作」ですね、それに創造の「創る」二つあわせて創作です。ですから、そこへ来たら「私、吐けなくなつて、胸のどこにもトキメキがない」と思わずに、私はこれから作家の道へ入ったなど……、い

よいよ本番だと。

二年か三年か五年か、タイプで違うでしょうけれどもね、まあ遅くとも五年ですね。そこで、そういう感情が出てこないで、何となくふわふわふわ句会など楽しんでいる人は、自分が下手なのにも気がつかない、つまり趣味の作者で終わる人なんです。

趣味、いいですよ。お楽しみでもいいんです。ただ作るのが苦痛になったら、早くおやめになった方がいいですね。限りある人生がもつたいたいんですから、盆栽をなさるとか、石を集めるとか、石集めは人生究極の趣味だそうですから（笑）。

——結局は、自分がどれだけ川柳が好きかということでしょうか。

新子 そうです。好きなら下手でもいいんです。そういう人こそ、私は抱き締めたいです。下手とか上手とかそういう作品の価値ではなく、川柳が「好きか嫌い」かで決めてもらいたいですね。ですから、川柳が好きならば、句がでない時期はお休みになってけっこうです。吐けないとか、書けないとか悩まずに、距離を置いてみると、ほんとうに好きかどうか

かがわかりますよ。

——私はそんなに不幸でないから、川柳が作れないという声も聞くのですが。

新子 私が「適当に幸福で、適当に不幸……つまり、適度な不幸を持つているのが、川柳を作る上で一番いい土壌だ」と、書くかしやべるかしたことがあります。それがある人がまだ入りたての若い女性に向かって、「あなたも、その不幸の集団の一人だ」と言っただけです。そしたら、その若い女性はおやめになったという悲劇がありました（笑）。そんなドラマチックに生きている人はいませんよ。だから自分で自分の胸の中を波立たせる、それが創作の基本なんです。

もう川柳が出てこないという人は、雑草をイメージしてください。人が草を引いたとしますね、でも雑草は根っこを残しているんですよ、生命力が強いですからね。それと同じように川柳の根も残っているんです。だから、もう川柳なんかどこから出てこないと思ったら、何度でも言いますが、勇気を持って作句することをお休みしてください。

枯れたと思ってても、川柳にも根っこがあるから、何日か経つと、ぽつと芽が出てきます（笑）。そしたら、その芽を見

逃さないようにすることです。それこそ、喜怒哀楽の芽が出てきます。どれが出てくるかわかりませんけどね。その出てきた芽を拡大し、一センチの芽が出たら一メートルぐらいにオーバーに表現すればよいのです。川柳は、ホラ吹きぐらいでちょうどいいの(笑)。

—— 雑詠は吐く、題詠は作るというイメージがあり、私は題詠の方が好きなのですが。

新子 そうですね、雑詠は題がないから、寄りかかるものがあります。野原に一人で立っているようなものです。そうすると、自分しかないから、自分を吐くことになりますね。だから、作るという方が得意の人は、雑詠で行き詰まったら、それこそトンボならトンボ、自分で題を作ってその題に自分を投影して雑詠を詠めばいいのです。

モノローグ川柳は失敗

—— 俳句には、吟行など外からの刺激で創作できる、うらやましさがあるんですが。

新子 だけど、俳句の方も「野道を行けば……」で歩いてらっしゃるように見えるけど、自分という軸を立てて歩いていらつしやいますよ。自然と自分を重ねてね。川柳の人たちは、自分と人間ね。それが、だれも居なかったら、もう一人の自分とダイアログをするしかないですね。それも居ない時には、モノローグになってしまいますが、モノローグは、眩きとなり失敗です。

自分一人でもダイアログ形式が文芸ですから、もう一人の、自分と対話すること。だから、俳句の吟行をうらやましがらるなら、浅草か、どこかに行つて雑踏の中を歩けばいいんです。いっぱい人間が居るし、刺激がいっぱいです。

俳句の人も、野道を歩きながら自分と対話しておられると思いますよ。その時使う具象が、タンポポであつたり、トンポであつたりするだけです。それが、川柳は鍋釜になつたり団子になつたり下駄になつたりするだけ。小道具がちがうだけです。

怒哀こそ創作のエネルギー

—— 怒りは、川柳のエネルギーになりますよね。でも、私は最近あまり怒りを感じないのですが。

から（笑）。

——身内の不幸とか哀しみとかも、大きなエネルギーになりますよね。作者自身も癒されるし。

新子 でもね、本当の悲しみの句は、できれば自分が決めたただ一人の他人に読んでもらうことをすすめます。私も、どうにもならない苦しさや哀しみを詠んだ句は、自分が決めたたった一人の人に読んでもらいます。大勢のまやかしの慰めより、一緒に泣いてくれる一人の他人に、どれほど癒されるか……。

時実新子一人に向かって書いてほしい

——自分の句が上手くなっているのか、下手になっているのか。どうやって判断したらよいのでしょうか。

新子 作品は海です。上手くなったり、下手になったりしています。波なんです。土用波の日もあれば、のたりのたりの日もあるし、押し寄せる津波の時もあります。それは、自分ではわからないものです。自分で自分の句が上手くなったと

新子 怒りと哀しき、「怒哀」は創作や生きることの大きなエネルギーとなります。年齢を重ねたからといって、あまり丸くならずに、いつまでも、金平糖のように、最後まで角があった方がいいんですよ（笑）。

まあ、人生は大抵マンネリなのですが……。でも、周囲の物事に、興味をなくしたり、相手を愛したり憎んだりすることから遠くなると、喜怒哀楽がなくなります。生きているということにマンネリを感じると、川柳にも影響が出てきてしまいます。

逆に若い人は喜怒哀楽が激しいですよ。若い人というのは、物心両面で、知りたいことが山ほどあるからです。ですから、すべてのことにもっと興味を持ってほしいですね。それが加齢とともに、だんだん少なくなってきた、怒りも哀しみも、全部が薄味になってしまいうのです。そこを作家精神で乗り切るのが大切なの。

怖いのは、鈍感になることです。鈍感になったら、生きているのもどうでもよくなってしまうからね。ですから吐けなくなったことをむしろ喜んで、喜怒哀楽を自分で作り出さねばなりません。特に、作家ともなりますとね。若い時とちがって、喜怒哀楽は、もう、向こうからやってきません

わかったら、死んでもいいんじゃないの（笑）。死んでもわかってないのが、自分ですからね。

私なんかつらいですよ、川柳大学誌に走馬灯を出せ出せと言われて、いま六十代の句でしょう。私の句のピークは、五十代でしょうかね。あの頃の句を見ると、生きるパワーも句のパワーもあったと思いますね。量も多いし。だからね、それこそ自分の句が退歩しているのか進歩しているのか、わかる人は、神様の次ぐらいにお座りになればいいの。わからないのがあたり前。でも、下手な句はわかりますよ（笑）。

—— 全国大会で抜けるのがいいのか、先生に選んでいただいた数が多くなれば上手くなったのか。つつい価値基準を探してしまいます。

新子 文芸は利き酒と一緒にやないかしら。だから自分が信じられる人を一人見つけてください。自分が作ったお酒が並んでいて、その人がこれはうまいと言ってくれるから初めて喜びを感じるんで、味もわからない人が、どれもこれもうまいうまいと言ってくれてもうれしくはないはずですよ。飲む人の好みも辛口、甘口がありますからね。ですから、文芸と利き酒はよく似ていると思いますよ。

皆さんの好みに合わせてよう、つまり、総花的というか、満場の拍手が欲しい人ほど文芸も趣味の世界で終わってしまいますね。だから、どれだけ大きな劇場でも観客は一人です。自分が認め、敬愛するその一人の観客に向かって芸をする。芸人さんでも一流の人はそうやっているのではないかと私、思っています。満場の皆さんにほめてもらうことを目指したとき、すべての芸術は墮落するんです。

でね、全国大会で特選を取った句を必ず句集に入れる人がいますが、実は、たいしたことのない句が多いんですよ（笑）。そして、観客であるその一人が見つかからない時こそ、自分の中のもう一人に向かって書く。究極は、句のよしあしを決めるのも自分ということになります。大切なのは、自分の中に他人の目をいつも持つていることです。冷たい目ですね。自分の句を他人の目で見える目です。それができれば、句の進歩や退歩もわかります。

私の希望を言えば、時実新子を信じてくれて、私が選んだ句を信じてほしいのです。つまり、時実新子一人に向かって書いてくれればいいのです。

螺旋階段が個性を創る

——川柳大学十年。男性、女性に限らず自分の句の個性を作りたい時期だと思うのですが。

新子 そうですね、個性ができてまた当然なんです。自分を詠んで詠んで、ぐるぐると回りながら私発（わたくしはつ）をやっていると、ひとりでに個性になってくるものです。自分が気がつくつかないかの違いですね。そしてぐるぐると回る個性の運動が、どうぞ螺旋状であってほしいと思います。ただ回転だけで元に戻っては、きりきり舞だけ（笑）。少なくとも、バネ式に螺旋で向上してほしいのです。川柳大学十年の螺旋階段ですね。

自分の句のレベルが退歩していないか、ちよつとでも地面から上に行っているか常に自問自答してください。同じところで十年は困ります。でもね、マンネリは恐れてはいけません。マンネリがなければ、個性は生まれません。

例えばひと目でモネの睡蓮とわかるのは、モネの作風のマンネリによるものです。ピカソはピカソで、青の時代とか具象を描いた時代もいろいろあって、どの時代のピカソを今見ても、誰もがピカソとわかってしまうほど個性があります。

つまり個性は結果で、自分から旗を立てて作るものではないと思います。螺旋状ということだけを心掛けて、元に戻つ

てないか、ちよつとでも地面から離れているか、と思いつつ堂々巡りのマンネリを続けてください。結果として個性になるのです。

——川柳の遊び心とは？

新子 あまり遊びすぎないこと。川柳の遊び心は、ピクニックをしてもいいから、ハイキングをしないということです。

遊びにも、一人遊び、二人遊び、数人遊び、まあゲートボールでもいいです。いろいろありますが、ピクニックというのは家族や友達と一緒に景色のいい平地で飲んだり食べたりして楽しむことですよね。

もう一方、目的があつて、そこまで絶対に行き着かなくてはならないという負荷が大きいのがハイキング、と私は定義づけています。上り坂あり石段あり、なんとか神社の奥の院参拝とか、ハイキングは、アンチエイジングの無理や負荷が大きいのです。結果、疲れたり途中で倒れたり、自分に無理強いをしたりしてしまいますね。

川柳の遊び心は、ピクニックスタイル……。ゆとりある遊び方、気負つたりしないのがピクニックですからね。でも、このピクニック的姿勢は、六十歳では早すぎますね、もつと

聞き手・杉山昌善
.....
Profile

「月刊川柳大学」東京編集委員

(2001年～2007年)

現在 現代川柳「かもめ舎」会員・編集委員



時 実 新 子

(ときざね しんこ)

Profile



略歴

1929年1月23日 岡山県生まれ
1963年 句集『新子』で柳壇にデビュー
1975年 個人季刊誌「展望」創刊
1987年 句集『有夫恋』（朝日新聞社刊）発刊、ベストセラーとなる
1996年「展望」を人手に譲り、新たに「時実新子の月刊川柳大学」創刊
2007年3月10日 神戸にて死去（享年78歳）
新子の死去により「月刊川柳大学」は終刊となる
生前は新聞・雑誌の川柳選者として活躍し、川柳の普及に努める
句集、エッセイ集、入門書など、著作多数

受賞歴

1976年 三條東洋樹賞、1981年 姫路市民文化賞
1995年 神戸新聞文化賞、2001年 神戸市民文化賞

新子の川柳ライブ塾

平成25年3月10日発行

発行者・安藤まどか

発行所・川柳大学事務局

〒140-0002 品川区東品川 4-3-3-705 安藤方

ブックデザイン・あざみエージェント

印刷製本・国際印刷出版研究所

©senryudaigakujimukyoku 頒価1,200円＋税

本書の無断転載・複製は著作権上の例外を除き禁止されています。

